

平成 26 年度 地域における地球温暖化防止活動促進事業（愛知県）  
年次レポート

---

温室効果ガス排出実態調査 集計結果報告書

平成 27 年 2 月  
一般社団法人環境創造研究センター



# 目次

1	調査の実施概要	1
2	要約と考察	5
2.1	家電の使用状況について	5
2.2	家庭でのエネルギー使用状況について	7
2.3	車の使用状況について	9
3	集計・分析結果	11
3.1	回答者の世帯構成	11
3.2	家電の使用状況	13
3.3	家庭でのエネルギー使用状況	30
3.4	車の使用状況	37
4	資料編	41
4.1	自由記入欄に記述された意見	41
4.2	調査票原票	47



# 1 調査の実施概要

## 1.1.1 調査の目的

本調査は、愛知県における市民の日常生活に関する温室効果ガスの排出実態について把握する調査であり、家庭における電気・ガス等エネルギー使用状況のほか、家電や車の使用状況とともに、それぞれの使用状況に対する自己評価を行う調査項目がある。どのような世帯構成（世帯人数）、或いは、どのような認識を持つ層がどのような CO2 排出量の傾向を有するか把握する調査であり、集計結果からは、どのようなセグメントにどのような普及・啓発、及び情報提供が必要かについての分析を行っている。

また、調査結果は年次レポートとしてとりまとめてウェブサイト等で公開し、推進員、愛知県、当センターが行う地球温暖化防止活動とその普及啓発活動において活用していくものである。

## 1.1.2 調査対象

### 1.1.2.1 調査票の配布

平成 26 年 9～11 月にかけて、下記を対象に、調査票の配布を行った。

- 愛知県地球温暖化防止活動推進員
- 当センター主催シンポジウム、セミナー等の受講参加者
- 11/8-12 開催・ESD ユネスコ会議併催イベントの一般来場者 など

### 1.1.2.2 回収数

- 調査票は 320 部を回収
- うち有効票は 305 部

## 1.1.3 調査方法

調査票	・ 回答者自身が調査票へ直接記入・記述する調査方法により実施 ・ 調査票の規格：A4 サイズ・全 4 頁・モノクロ
配布方法	・ 推進員研修会、当センター主催イベント等にて配布を行った。 ・ 11/8-12 開催・ESD ユネスコ会議併催イベントにおける配布の際は、アンケート協力者に景品を進呈した。
回収方法	・ セミナー、イベント等の場で配布し、その場で記入した後、回収した。

## 1.1.4 調査項目

<b>1 世帯構成について</b>	
問1	世帯の構成
問2	同世帯者の年齢・性別・人数
<b>2 家庭での家電の使用状況について</b>	
問3	家電の使用時間や設定温度等
1)-①	エアコン（冷房時）の設定温度
1)-②	エアコン（冷房時）の使用時間
2)-①	エアコン（暖房時）の設定温度
2)-②	エアコン（暖房時）の使用時間
3)	その他の暖房器具（こたつ、電気ストーブなど）の使用時間
4)	居間・台所の照明器具の使用時間
5)-①	テレビの視聴時間
5)-②	テレビの主電源が入っている時間
問4	家電の使用状況に対する自己評価
1)	エアコン（冷房時）
2)	エアコン（暖房時）
3)	その他の暖房器具（こたつ、電気ストーブなど）
4)	居間・台所の照明器具
5)	テレビ
<b>3 家庭でのエネルギー使用状況について</b>	
問5	家庭での電気・ガス等のエネルギー使用状況（春、夏、秋、冬）
1)	電気
2)	都市ガス
3)	L P G
4)	灯油
5)	ソーラー発電等による売電量
問6	家庭での電気・ガス等の使用状況に対する自己評価
<b>4 家庭での車の使用状況について</b>	
問7	自家用車の所有の有無
問8	① 所有している車の台数
	② 所有している車の燃料代
問9	自家用車の燃料代（使用量）に対する自己評価
<b>5 温暖化や節電・省エネに関する意見・疑問など</b>	
問10	自由記入欄

## 1.1.5 集計方法について

### 1.1.5.1 回答割合の算出方法について

- 集計結果の各割合（％）は、各設問における回答者数を基数(n)として算出しており（「不明」、「無回答」を除いていない）、複数回答の設問では、その合計が100%を超えることがある。
- 回答割合の集計・算出は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100.0%にならないものもある。

※各集計結果（表及びグラフ）で、属性ごとの回答者数を基数「n=」として表示しており、n 数値が少ない（回答者数が少ない）属性の集計結果については、各回答割合の参照に際し、誤差が多分に含まれていることを前提とした注意を要する。

### 1.1.5.2 使用係数について

CO2 排出量の算出、エネルギー使用料金の使用量への換算については、下記の係数を用いた。

#### ■ CO2排出係数

エネルギー品目	係数	単位	出典
電気	0.516	kg-CO2/kWh	環境省「電気事業者別のCO2排出係数(2012年度実績)（平成25年12月19日公表）※平成26年7月18日一部追加・修正」
都市ガス	2.23	kg-CO2/m3	環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」
プロパンガス	6.0	kg-CO2/m3	日本LPガス協会「プロパン、ブタン、LPガスのCO2排出原単位に係るガイドライン」
灯油	2.49	kg/リットル	環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」
ガソリン	2.32	kg-CO2/リットル	環境省「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」

#### ■ エネルギー使用料金を使用量へ換算するために用いた係数

エネルギー品目	料金 (税込み)	単位	出典等
灯油	110.69	円/L	石油情報センター「一般小売価格 民生用灯油（給油所以外）」愛知県 店頭価格・配達価格の平均 2014年9月15日
LPガス	543.7	円/m3	石油情報センター「一般小売価格 液化石油（LP）ガス」愛知県(20㎡価格－10㎡価格)より算出 2014年8月
都市ガス	168.95	円/m3	東邦ガス 一般契約B表 * 2014年9月
電気(従量電灯B)	26.36	円/kWh	中部電力従量電灯B (120～300kWh) 2014年9月
ガソリン	164.7	円/L	資源エネルギー庁「石油製品価格調査」1. 給油所小売価格調査(ガソリン、軽油、灯油)愛知県・レギュラー 2014年9月29日の週

### 1.1.5.3 本調査におけるエネルギー使用料金をもとに算出した CO2 排出量について

- 本調査では、回収した調査票 320 部（有効票 305 部）のほとんどが、11/8-12 開催 ESD ユネスコ会議併催イベントの一般来場者であり、その場で調査票への回答記入を行い、回収を行ったものである。
- そのため、春・夏・秋・冬それぞれの電気・ガス等使用料金や、車のひと月の燃料代について尋ねた設問については、回答者が記憶・認識している「おおそよ」の数値となっている。
- 分析の際には、ほかの調査結果等における家庭での CO2 排出量との比較は適切でないため、本調査の中での回答者属性、回答者の認識別による比較を行うにとどめている。



## 2 要約と考察

### 2.1 家電の使用状況について

- 各家電の使用状況の傾向・特徴は以下の通りである。

家電	使用状況の傾向・特徴など
エアコン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冷房時、暖房時とも、設定温度については世帯状況による差はあまりみられず、使用時間には差異がみられる。</li> <li>・ 使用時間は世帯人数が多くなるほど長くなり、特に女性や 12 歳以下の子どもの数が多い世帯ほど長くなる傾向がみられる。</li> </ul>
	冷房時 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 属性や省エネ・節電に対する認識によって、平気設定温度に差はあまりみられないが、使用時間には差異がみられる。</li> <li>・ 使用を抑える努力を充分にしていると認識している家庭は、平均使用時間が短い。</li> </ul>
	暖房時 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 暖房時にエアコンを使用していない家庭が 4 割近くを占めている。</li> <li>・ 使用を抑えたい家庭は比較的、設定温度が高く、使用時間も長い。</li> <li>・ 使用を抑える努力を充分にしている家庭は使用時間が比較的短い。</li> </ul>
その他の暖房器具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用を抑える努力を充分にしているという回答が 4 割近くとなっているが、平均使用時間はエアコン（暖房時）よりも長い。</li> <li>・ 使用を抑える努力を充分にしている家庭は使用時間が比較的短い。</li> <li>・ 世帯人数、女性と子どもの数が多い世帯ほど使用時間が長くなる傾向がみられ、特に 13 歳～19 歳のいる家庭の使用時間の長さが目立つ。</li> </ul>
居間・台所の照明器具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体の約 5 割が使用を抑える努力を充分にしていると認識している。</li> <li>・ 使用を抑える努力を充分にしている、使用を抑える必要を感じないと認識している家庭の使用時間が短い。</li> <li>・ 世帯人数が多い家庭、多世代家族、女性と 20 代・30 代の数が多い世帯ほど使用時間が長くなる傾向がみられる。</li> </ul>
テレビ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視聴しない時や就寝時に主電源を OFF にしている過程は 4 割ほどで、5 割近くが 24 時間 ON にしたままとなっている。</li> <li>・ 特に多世代家族、男性と子どもの数が多い世帯ほど主電源が 24 時間 ON のままになっている傾向がみられる。</li> <li>・ もう少し使用を抑えたいという回答が 4 割強を占め、ほかの家電に比べて使用を抑えていきたいと認識がもたれている家電である。</li> <li>・ 使用を抑える努力を充分にしている、使用を抑える必要を感じないと認識している家庭の使用時間が短い。</li> <li>・ 12 歳以下の子どもがいる世帯では視聴時間が短くなる傾向がみられる。</li> </ul>

- 全体的に、各家電の使用を抑える努力を充分にしていると認識している家庭は、使用時間が比較的短くなっている世帯であり、反対に、もう少し使用を抑えたいと考えている家庭は比較的長い使用時間になっている傾向がみられることから、各家庭の省エネ・節電に取り組んでいる／取り組んでいないという認識・自覚は、取り組み状況（遂行状況）にほぼ相当しているものと考えることができる。
- そのため、省エネ・節電に取り組んでいる家庭、取り組んでいない家庭は、取り組んでいると自覚している家庭と取り組んでいないと自覚している家庭であることを前提にした、それぞれに向けた普及・啓発を展開する必要がある。
- 冷暖房、及び空調等といった室温調整に関わる家電については、世帯人数が多い家庭や、女性・子どものいる家庭で使用時間が長くなる傾向があり、女性・子どもが家電の使用を抑えながらも、より健康で快適に過ごせる方法等の提案、情報提供が必要と考えられる。
- また、暖房時には、エアコンではなく、その他の暖房器具が使用される傾向がみられるため、エアコンの方が省エネになることがあまり認知されていない可能性があり、今後留意して P R を行う必要がある。

- 照明については、できるだけ使用を控えている、これ以上控える必要を感じないと認識している家庭が多くなっており、既に多くの家庭が十分に省エネ・節電を重視した使用となっていることがうかがえる。
- しかし、多世代家族、女性と20代・30代の人数の多い家庭は使用時間が長く、一方で使用を控えたいと認識している回答割合も高くなる傾向がみられることから、このセグメントに対しては、照明器具を使用する上での省エネ・節電についての普及啓発は重要と考えられる。
- テレビの主電源のON/OFFについては、ビデオ予約機能を使用しているためなどの理由が考えられるが、24時間ONにしたままの家庭が、実際にどういった理由によるかは、今後、調査が必要と考えられる。
- ほかの家電と比べると、使用時間（視聴時間）を控えたいと答えた割合が高い家電であり、省エネ・節電の取組の対象になり得やすい家電であるといえる。
- 今回の調査では、12歳以下の子どもがいる家庭ほど視聴時間が短くなる傾向がみられ、反対に60歳以上のいる家庭で比較的、使用・視聴時間が長くなっており、子どもがいる世帯よりも高齢者のいる世帯の方が省エネ・節電の呼びかけを必要とされている家電と捉えることができる。

## 2.2 家庭でのエネルギー使用状況について

### 2.2.1 電気・ガス等の使用料金の把握状況

- 家庭での電気・ガス等の使用状況（春夏秋冬それぞれのひと月の使用料金）について、回答することのできた人の割合は6割弱ほどで、3割弱が記入できない、電気・ガス代を把握・認識していない結果となった。
- 記入率が高い家庭は、夫婦のみ世帯と世帯人数の少ない家庭となっている。
- また、子どものいる世帯では、12歳以下の人数が多くなるほど記入率が高くなるが、13歳～19歳の人数が多くなるほど記入率が下がる結果となっている。
- 多世代、世帯人数が多い、また子どもの年齢が一定年齢以上に達している家庭では、電気・ガスの使用料金（使用量）に対する意識、関心がうすれがちになりやすい傾向がうかがえる。
- そのため、このような世帯状況のセグメントに対し、電気・ガスの使用における省エネ・節電意識の向上、関心をもってもらうための工夫や仕掛けが重要と考えられる。
- また、昨年度年次レポート「省エネモニター調査 集計結果報告書」では、多世代、世帯人数の多い家庭は省エネ・節電を含めた環境配慮行動に取り組み難い傾向を有していることが示されており、今後、その背景をさぐる必要がある。

### 2.2.2 電気・ガス等の使用によるCO<sub>2</sub>排出状況

- 本調査で、各家庭で電気・ガス等の使用による年間CO<sub>2</sub>排出量の平均値は3,010kgとなった。
- また、電気・ガス等の使用状況に対する自己評価で、もっと節電・省エネに取り組むことができるが全体の約4割を占めて最多で、反対に節電・省エネに取り組む必要はないという回答者はごく僅かという結果であり、今回の調査対象者の多くが節電・省エネに対する意識の高い層であることがうかがえる。
- 家電の使用状況と同じく、電気・ガス等のエネルギー使用状況についても、省エネ・節電のために「更なる取組が必要」と認識している家庭は、そうでない家庭よりもCO<sub>2</sub>排出量は少ないため、その認識・自覚は省エネ・節電の取り組み状況（遂行状況）にほぼ相当している結果がここでは表れている。
- 世帯人数が多い家庭、及び多世代家族ほどCO<sub>2</sub>排出量は多く、また、もっと節電・省エネに取り組むことができると認識している家庭も多いため、今後も世帯人数の多い家庭に向けた節電・省エネの普及啓発は重要である。
- 一方で、世帯人数の少ない家庭や単身世帯では、取り組みたいが何をしたらいいかわからないと答えた回答者が多く、世帯人数別にしたそれぞれの家庭に適した情報提供、普及啓発が求められている。
- 世帯の中に女性がいる／いない、また女性の人数によってCO<sub>2</sub>排出量に差が見られ、女性のいない世帯では電気・ガス等の使用によるCO<sub>2</sub>排出量が少なく、女性の数が多くなるほどCO<sub>2</sub>排出量も多くなる傾向が男性よりも顕著になっている。
- また、冷暖房や照明など家電の使用時間も女性のいる家庭ほど長くなる傾向がみられ、一方で女性の省エネ・節電への取り組み意思は高いことから、家庭で家電、及びエネルギーをよく使用する女性を特に意識にした普及・啓発も重要と考えられる。
- 年齢別セグメントでみていくと、20代～50代は世帯の中の人数が多くなるほどCO<sub>2</sub>排出量も多くなっているが、60代以上については世帯の中の人数によるCO<sub>2</sub>排出量の増加が20代～50代の増加に比べて小さい。
- また、子どものいる世帯では、特に13歳～19歳のいる世帯で、その人数が多くなるほどCO<sub>2</sub>排出量の増加の伸びが大きくなっているが、12歳以下の子どものいる家庭はそれほど大きくなく、もっと取り組むことができるという意識をもった家庭が多い。
- そのため、高齢世帯や小学生及び小学生のいる家庭よりも、20～50代と中高生及び中高生のいる家庭に向けた普及・啓発の展開が重要になっていると考えられる。

●電気・ガス等のエネルギー使用量を一年間に排出等したCO2量に換算

項目	記入者数	CO2量 (記入平均値)
電気	219	2,124 kg
都市ガス	163	867 kg
LPG(プロパンガス)	24	924 kg
灯油	66	461 kg
<b>a. 各家庭のエネルギー使用の合計(※)</b>	<b>219</b>	<b>3,010 kg</b>
b. ソーラー発電等による売電量	9	2,990 kg
<b>c=a-b</b>	<b>219</b>	<b>2,887 kg</b>

※回答者個々の家庭の使用エネルギーをの合計をCO2排出量に換算した値の「平均」であり、エネルギー4種の合計ではない。

●世帯人数別のCO2排出量

(各回答者の家庭のエネルギー使用量を一年間のCO2排出量に換算した値の平均値)

項目	記入者数	CO2量 (平均値)
1人	31	1,402 kg
2人	76	2,643 kg
3人	56	3,282 kg
4人	32	3,696 kg
5人以上	24	4,696 kg
全回答者	219	3,010 kg

●世帯構成別のCO2排出量

(各回答者の家庭のエネルギー使用量を一年間のCO2排出量に換算した値の平均値)

項目	記入者数	CO2量 (平均値)
単身	30	1,426 kg
夫婦のみ	70	2,651 kg
2世代家族	89	3,476 kg
3世代家族	25	4,337 kg
その他	5	2,582 kg
全体	219	3,010 kg

●問5：電気・ガス等使用による年間CO2排出量

世帯の状況	区分	記入者数 (n)	年間CO2排出量 (平均値)単位:kg
世帯の構成	単身	30	1,426
	夫婦のみ	70	2,651
	2世代家族	89	3,476
	3世代家族	25	4,337
	その他	5	2,582
世帯人数	1~2人	107	2,283
	3人	56	3,282
	4人以上	56	4,124
男性の人数	いない	23	1,867
	1人	123	2,725
	2人	50	3,909
	3人以上	23	3,717
女性の人数	いない	17	1,329
	1人	125	2,797
	2人	48	3,377
	3人以上	29	4,304
60歳以上の人数	いない	82	2,802
	1人	53	3,097
	2人以上	84	3,157
40代・50代の人数	いない	104	2,622
	1人	55	2,878
	2人以上	60	3,801
20代・30代の人数	いない	136	2,714
	1人	53	3,232
	2人以上	30	3,957
19歳以下の人数	いない	158	2,792
	1人	34	3,587
	2人以上	27	3,557
13~19歳の人数	いない	195	2,911
	1人	20	3,786
	2人以上	4	3,953
12歳以下の人数	いない	175	2,891
	1人	26	3,466
	2人以上	18	3,506

## 2.3 車の使用状況について

- 本調査では、7割が車を所有しており、2割強が所有していない結果になっている。
- また、所有している車の台数については、約5割が1台と答えており、3割が2台と答えている。
- 車の使用燃料を年間CO<sub>2</sub>排出量に換算したところ、車1台あたりのCO<sub>2</sub>排出量は平均1,242kgとなった。
- 車の使用燃料に対する自己評価をみると、約4割が車の使用を抑えることができないが、もっとエコドライブを心がけたいと答えており、次いで、もっと車の使用を抑えるようにしていきたいが2割で多く、車の使用燃料をできるだけ少なくしたい意向をもつ家庭が多く、特に車の所有台数に比例して多くなっている。
- 世帯の中に60歳以上の人数が多くなるほど、もっと車の使用を抑えるようにしていきたいという意向が強くなっており、高齢世帯に対し、車利用の代わりに公共交通機関の利用等を促す、免許返上等のインセンティブは今後効果があるものと考えられる。
- 子どもがいる世帯では、車の使用を抑えたいという意向よりも、エコドライブを心がけたいという意向が強くなる傾向がみられ、エコドライブに関する情報提供や、エコドライブに取り組みたくなる工夫・仕掛けが特に必要とされる世帯になっているものと考えられる。
- また、家電の使用状況や電気・ガス等の使用状況と同様に、車1台あたりの年間CO<sub>2</sub>排出量も、既に十分に車の使用を抑えたり、エコドライブを実践している回答者のCO<sub>2</sub>量が少ないことから、実践している家庭に対しては既に実践できていることを前提に、更なる実践と継続を促す普及啓発を展開していく必要がある。

● 問8：所有自家用車の台数×使用燃料のCO<sub>2</sub>排出量  
(1年間の家庭全体での車の燃料代・使用量をCO<sub>2</sub>量に換算)

項目	記入者数	家庭全体における 1年間の車の使用燃料 によるCO <sub>2</sub> 排出量 (平均)
車1台を所有	102	1,242 kg
車2台を所有	61	2,675 kg
車3台を所有	12	3,207 kg
車4台を所有	12	5,674 kg
車5台を所有	2	5,071 kg
全体	189	2,151 kg

● 問9：自家用車の燃料代（使用量）に対する自己評価×車の使用燃料のCO<sub>2</sub>排出量  
(1台あたりの1年間の車の燃料代・使用量をCO<sub>2</sub>量に換算)

項目	記入者数	1台あたりの1年間の 使用燃料のCO <sub>2</sub> 排出 量 (平均)
もっと車の使用を抑えるようにしていきたい	34	1,236 kg
車の使用を抑えることはできないが、もっとエコドライブを心がけたい	86	1,393 kg
もっと車の燃料代の節約に努めたいが、これ以上は無理だと思う	35	1,234 kg
既に十分に車の使用を抑えたり、エコドライブを実践している	26	991 kg
特に車の燃料代の節約などに取り組む必要はないと考えている。	7	1,155 kg
無回答	1	1,268 kg
全体	189	1,271 kg

※データバーの表示がない箇所は記入者数が5人未満のデータ。



## 3 集計・分析結果

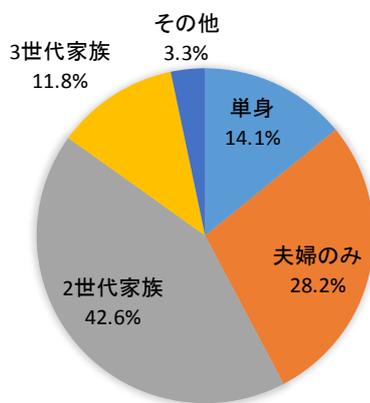
### 3.1 回答者の世帯構成

#### 3.1.1 世帯の構成と世帯人数

- 回答者の世帯の構成は、2世代家族が4割強、夫婦のみ世帯が3割弱、単身と3世代家族がそれぞれ1割強ほどとなっている。
- 世帯人数は2人が3割、3人が2割強、4人・1人5人以上がそれぞれ1割強ほどとなっている。

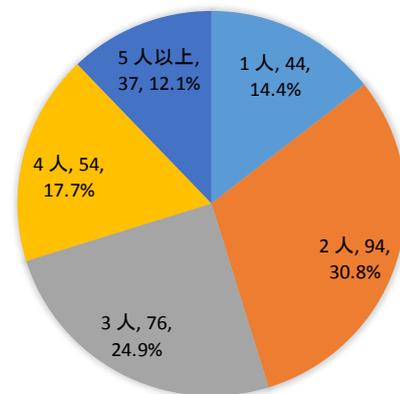
##### ●問1：世帯の構成

(n=305)



##### ●問2：世帯人数

(n=305)

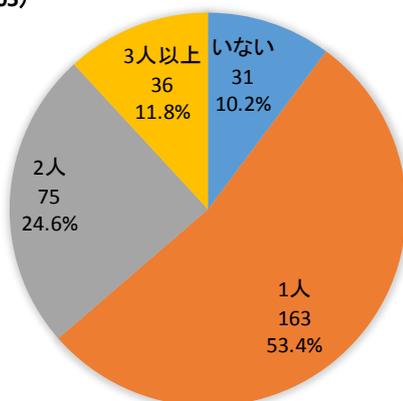


#### 3.1.2 世帯の中の男性・女性の人数

- 世帯の中の男女別の人数をみると、1人が5割強、2人が2割強、3人以上が1割強と男女ともほぼ同じ人数・割合になっている。

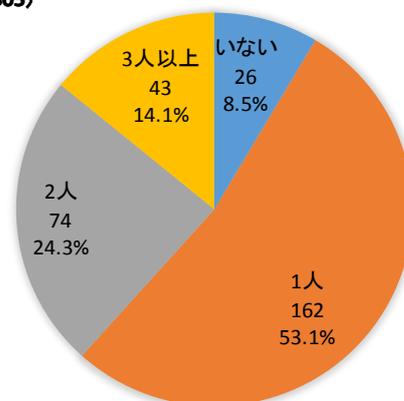
##### ●問2：世帯の中の男性の人数

(n=305)



##### ●問2：世帯の中の女性の人数

(n=305)

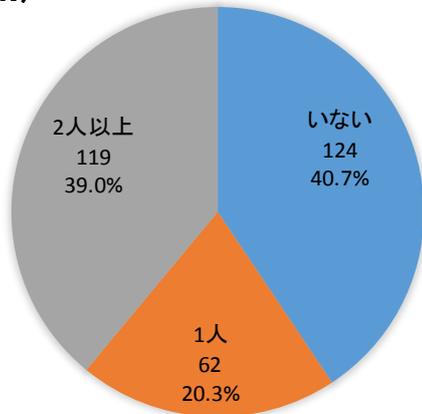


### 3.1.3 世帯の中の年齢層別の人数

● 本調査の回答者の世帯における各年齢層の人数と全体に占める割合は下図の通りである。

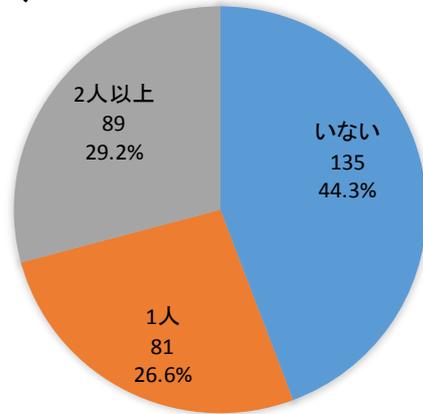
● 問2：世帯の中の60歳以上の人数

(n=305)



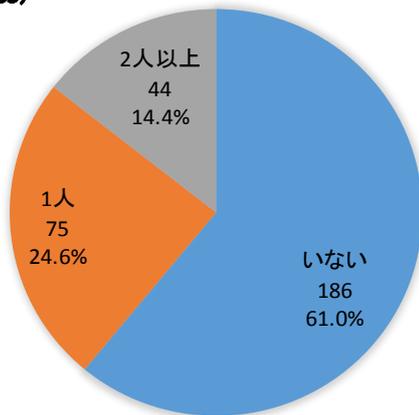
● 問2：世帯の中の40代・50代の人数

(n=305)



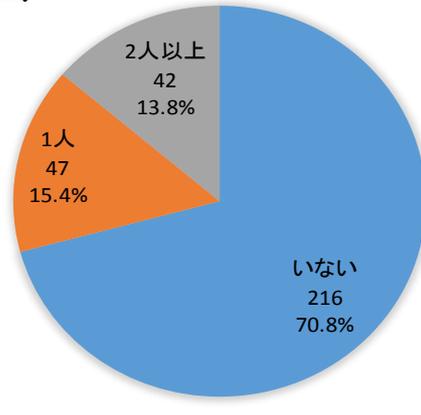
● 問2：世帯の中の20代・30代の人数

(n=305)



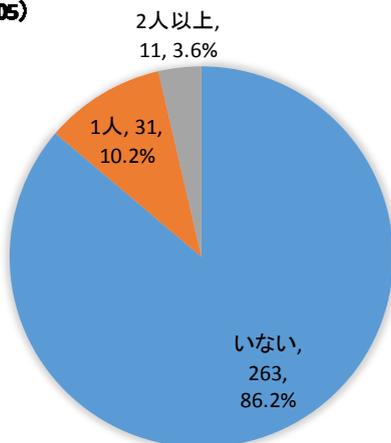
● 問2：世帯の中の19歳以下の人

(n=305)



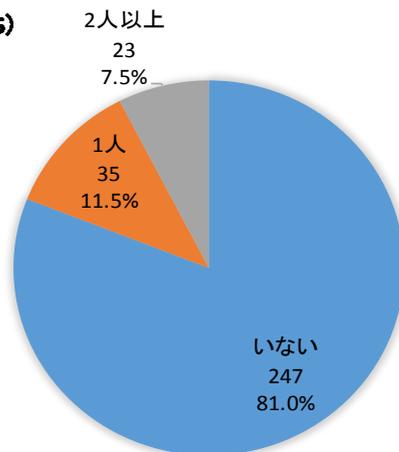
● 問2：世帯の中の13歳～19歳の人数

(n=305)



● 問2：世帯の中の12歳以下の人数

(n=305)



## 3.2 家電の使用状況

### 3.2.1 家電の1日の使用時間等

- エアコンの冷房時の平均使用時間は 5.1 時間、平均設定温度は 26.2 度、暖房時の平均使用時間 3.5 時間、平均設定温度は 23.6 度となっている。
- その他の暖房器具の平均使用時間は 5.5 時間で、暖房時のエアコンよりも長時間となっている。
- 居間・台所の照明器具の平均使用時間は 7.3 となっている。
- テレビの1日の平均使用時間は 4.6 時間で、テレビ本体の主電源については、24 時間 ON にしたままの家庭が全体の 5 割近くを占め、見ない時・就寝時などには OFF にしている家庭が 4 割ほどとなっている。

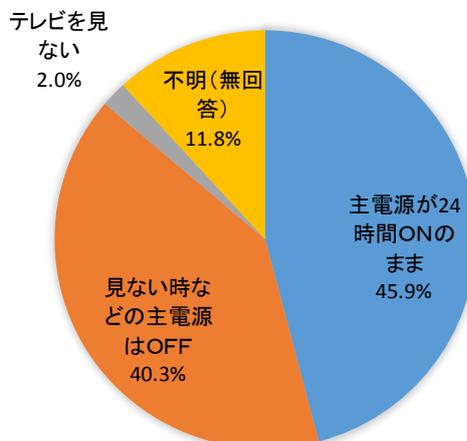
#### ●問3：家電の使用状況

家電の種類	1日の使用時間 (平均値)	設定温度 (平均値)
エアコン(冷房時)	5.1 時間	26.2 度
エアコン(暖房時)	3.5 時間	23.6 度
その他の暖房器具	5.5 時間	
居間・台所の照明器具	7.3 時間	

家電の種類	1日の視聴時間 (平均値)	主電源が入っている時間 (平均値)
テレビ	4.6 時間	15.4 時間

#### ●テレビの主電源のON/OFF

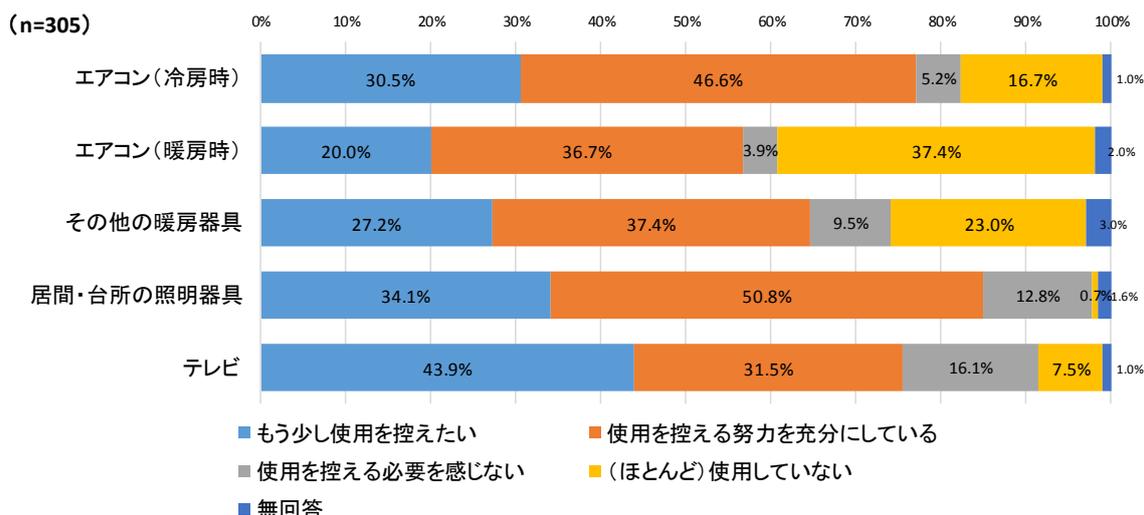
(n=305)



### 3.2.2 家電の使用状況に対する自己評価

- 各家電の使用時間等に対する自己評価では、冷房時のエアコンは 5 割近くが使用を控える努力を充分にしていると回答している。
- 暖房時のエアコンは（ほとんど）使用していないが 4 割近くで最多となっており、次いで僅差で使用を控える努力を充分にしているが多く、もう少し使用を控えたいは 2 割ほどで、ほかの家電に比べて少ない。
- その他の暖房器具は使用を控える努力を充分にしているが 4 割弱となっている。
- 照明器具は約 5 割が使用を控える努力を充分にしていると答えている。
- テレビはもう少し使用を控えたいが 4 割強で最も多く、使用を控える努力を充分にしているは 3 割ほどでほかの家電に比べて少ない結果になっている。

●問4：家電の使用状況についての自己評価

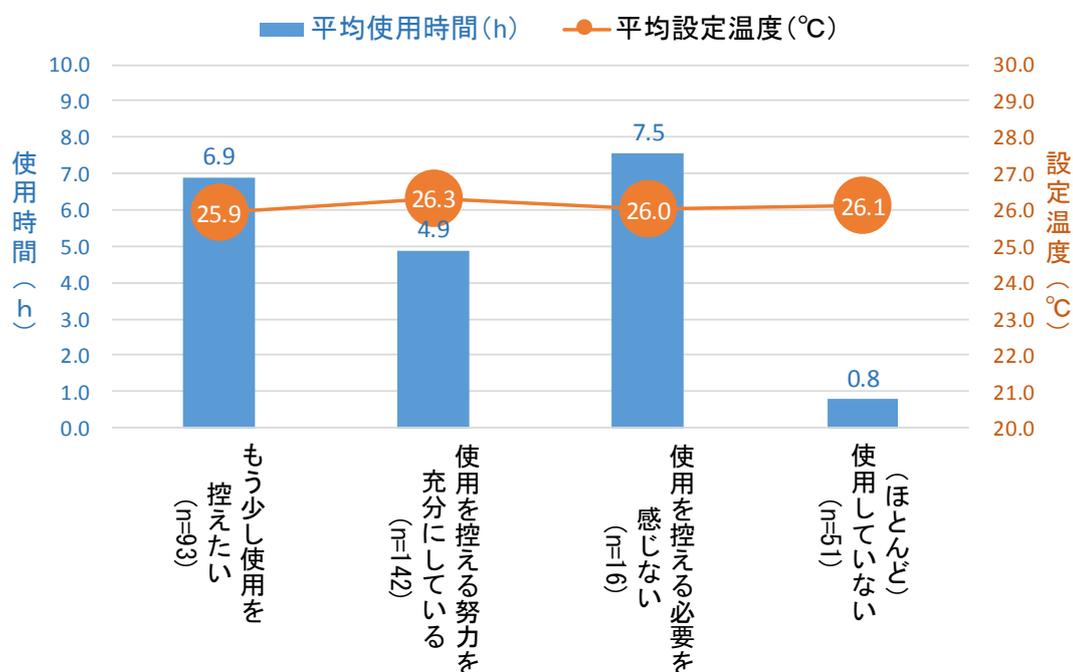


3.2.3 家電の使用状況に対する自己評価別に見た使用時間等

3.2.3.1 エアコン（冷房時）

- 家電の使用状況に対する自己評価別に各家電の使用時間等をみていくと、冷房時のエアコンの平均設定温度はいずれも 26 度前後で差はほとんどなく、平均使用時間に差がみられる結果となっている。
- 冷房時の平均使用時間は、使用を控える必要を感じない回答者の家庭が 7.5 時間で一番長く、反対に、使用を控える努力を充分にしている回答者の家庭が 4.9 時間で、(ほとんど) 使用していないを除いた中では一番短い。

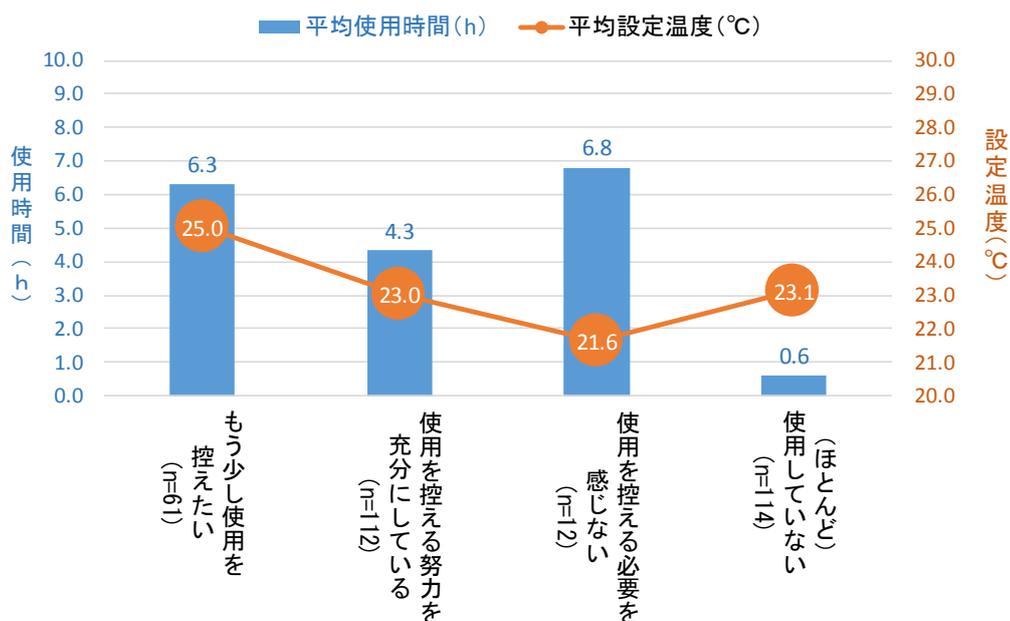
【エアコン（冷房時）】



### 3.2.3.2 エアコン（暖房時）

- 暖房時のエアコンは、冷房時と異なり、平均設定温度、平均使用時間ともに自己評価の違いによって差がみられる結果となっている。
- もう少し使用を抑えたい回答者の家庭は、平均設定温度が 25.0 度と一番高く、平均使用時間も 6.3 時間で比較的長い。使用を抑える努力を充分にしている回答者の家庭は、平均設定温度 23.0 度、平均使用時間 4.3 度で比較的自己評価通りの使用状況になっていることがうかがえる。使用を抑える必要を感じない回答者の家庭は、平均設定温度が 21.6 度と一番低いが、平均使用時間は 6.8 度で一番長くなっている。

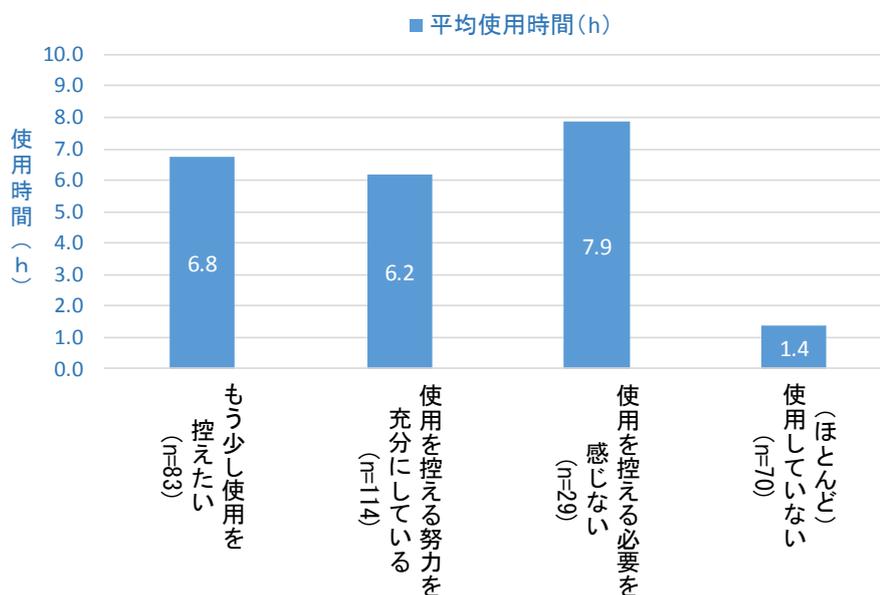
【エアコン（暖房時）】



### 3.2.3.3 その他の暖房器具

- その他の暖房器具の平均使用時間を自己評価別にみると、使用を抑える必要を感じない回答者の家庭が 7.9 時間で一番長く、使用を抑える努力を充分にしている回答者の家庭は 6.2 時間で（ほとんど）使用していないに次いで短い。

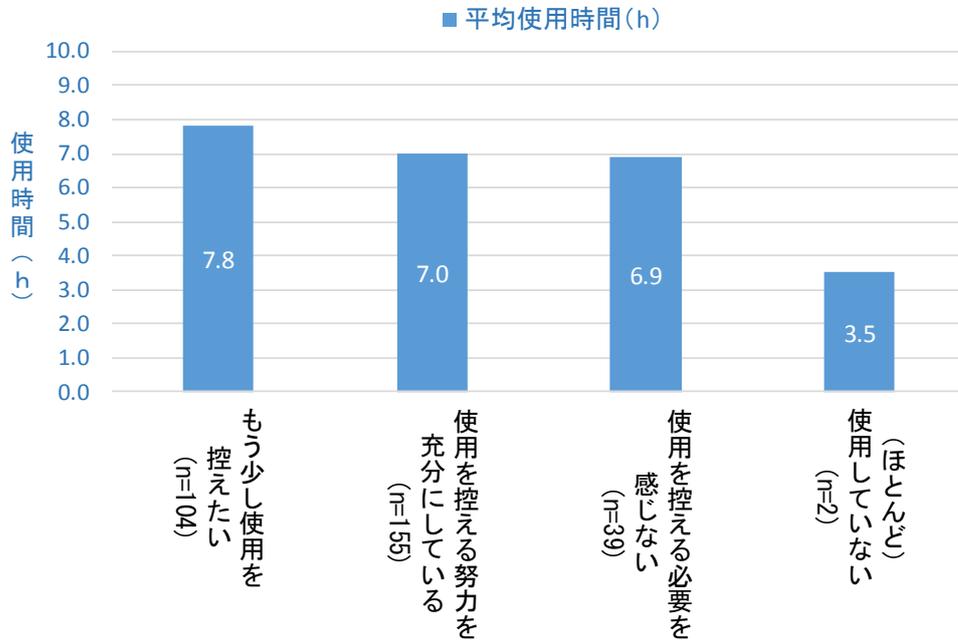
【その他の暖房器具】



### 3.2.3.4 居間・台所の照明器具

- 照明器具の平均使用時間は、使用を控える必要を感じない、使用を控える努力を充分にしている回答者の家庭がそれぞれ 6.9 時間、7.0 時間と差がなく、もう少し使用を抑えたい回答者の家庭が 7.8 時間で比較的長い結果になっている。

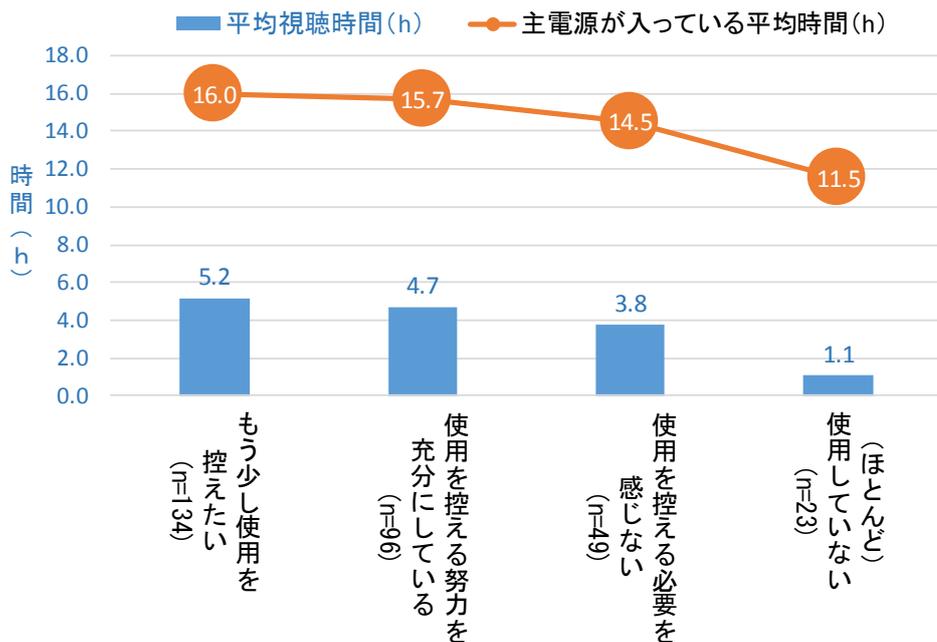
#### 【居間・台所の照明器具】



### 3.2.3.5 テレビ

- テレビの平均視聴時間は、もう少し使用を抑えたい回答者の家庭が 5.2 時間で一番長く、使用を控える必要を感じない回答者の家庭が 3.8 時間で、(ほとんど) 使用していないを除いた中で一番短い。

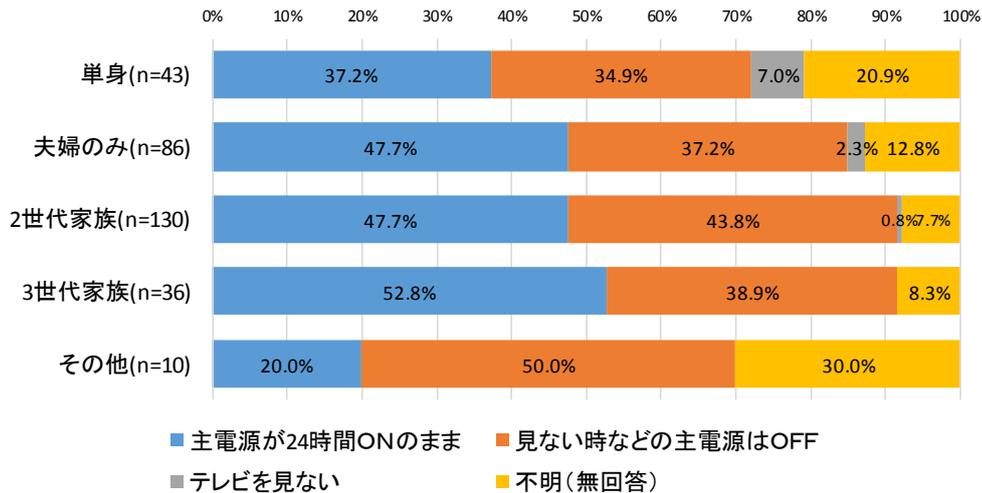
#### 【テレビ】



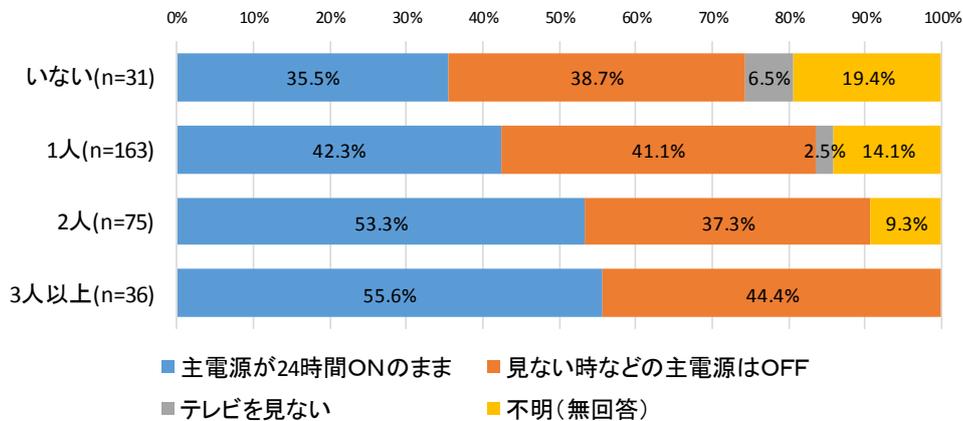
### 3.2.3.6 テレビを視聴しない時の主電源のON/OFF状況

- テレビを視聴していない時、就寝時等に主電源をOFFにしているか否かをみていくと、多世代構成の家族ほど主電源が24時間ONのままになっている割合が高くなる傾向がみられる。
- 特に世帯の中の男性の人数が多くなるほど、主電源を24時間ONにしたままの割合が高くなる傾向が、女性よりも明確に表れている。
- また、世帯の中の19歳以下の人数が複数名の家庭ほど、主電源が24時間ONにしたままの割合が高くなる傾向もみられ、特に12歳以下の人数が複数名ある家庭で、その傾向が顕著になる傾向もみられる。

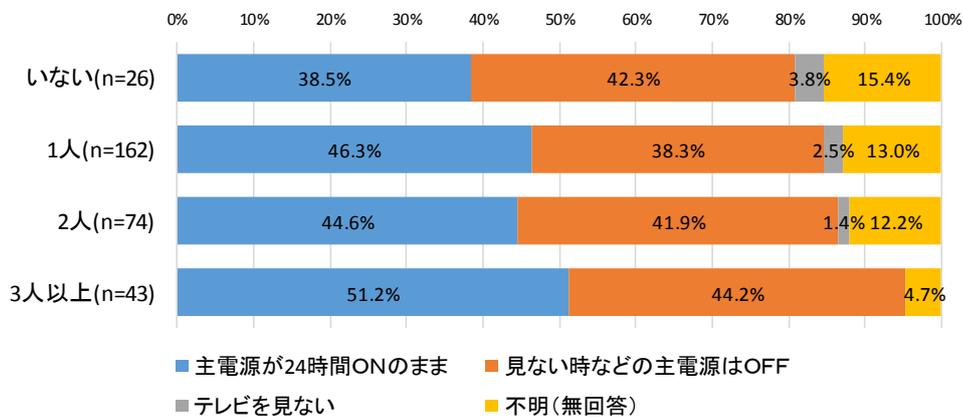
●問1：世帯の構成×問3-5②：テレビの主電源のON/OFF



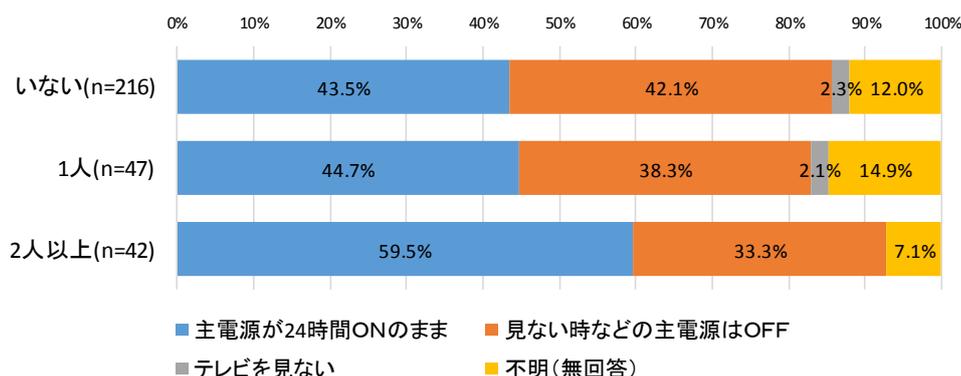
●問2：世帯の中の男性の人数×問3-5②：テレビの主電源のON/OFF



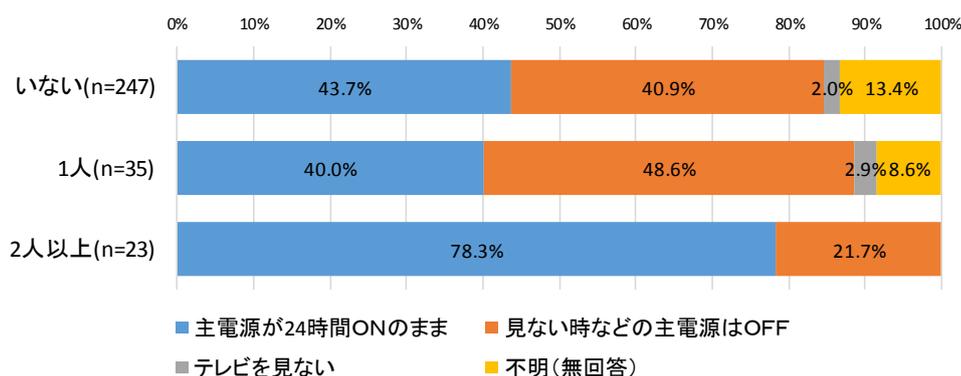
●問2：世帯の中の女性の人数×問3-5②：テレビの主電源のON/OFF



●問2：世帯の中の19歳以下の人数×問3-5②：テレビの主電源のON/OFF



●問2：世帯の中の12歳以下の人数×問3-5②：テレビの主電源のON/OFF



### 3.2.4 世帯状況別にみた家電の使用状況

- 世帯構成・人数等といった世帯状況別に各家電の使用状況をみると、エアコンは冷房時、暖房時ともに、平均設定温度に大きな差はみられない結果となっている。
- その一方で、エアコンの平均使用時間は、冷房時、暖房時ともに、世帯人数が多くなるほど時間が長くなり、特に女性の人数、12歳以下の子どもの人数が多くなるほど長くなる傾向がみられる。
- その他の暖房器具もエアコン同様に、世帯人数、女性、子どもの人数が多くなるほど平均使用時間が長くなっているが、特に13歳～19歳の人数が多い家庭の時間が長くなる傾向が目立つ。
- 照明器具は世帯人数とともに、多世代家族で平均使用時間が長くなる傾向がみられるほか、女性と20代・30代の人数が多い家庭も長くなる傾向がみられる。
- テレビの平均視聴時間については、ほかの家電のように、世帯人数が多くなるほど時間が長くなる傾向はみられず、12歳以下の人数が多い家庭ほど視聴時間が短くなる結果になっている。

●問3：家電の使用状況

世帯の状況	区分	回答者数	エアコン(冷房時)		エアコン(暖房時)		その他の暖房器具	居間・台所の照明器具	テレビ	
			設定温度(平均値)	1日の使用時間(平均値)	設定温度(平均値)	1日の使用時間(平均値)	1日の使用時間(平均値)	1日の使用時間(平均値)	1日の視聴時間(平均値)	主電源が入っている時間(平均値)
世帯の構成	単身	43	25.6	3.0	24.5	2.9	3.2	5.1	3.7	13.6
	夫婦のみ	86	25.9	4.4	23.8	3.3	5.0	7.5	4.9	15.9
	2世代家族	130	26.6	6.3	22.8	3.6	6.4	7.3	4.6	15.2
	3世代家族	36	25.9	5.5	23.9	4.8	7.2	8.8	5.0	17.4
	その他	10	25.4	3.3	25.0	3.3	3.3	7.8	3.2	11.7
世帯人数	1~2人	138	25.8	3.9	23.8	3.1	4.1	6.7	4.5	15.0
	3人	76	26.2	5.1	23.9	3.1	6.1	7.2	4.4	13.9
	4人以上	91	26.6	6.7	22.9	4.6	7.1	8.1	4.8	17.0
男性の人数	いない	31	25.2	3.3	24.5	3.0	4.5	6.5	4.4	14.0
	1人	163	26.3	4.5	23.8	3.2	4.8	7.1	4.5	14.8
	2人	75	26.2	6.4	23.0	4.0	6.8	8.4	4.8	16.6
	3人以上	36	26.3	6.4	22.6	4.4	6.5	6.4	4.6	16.4
女性の人数	いない	26	25.7	3.4	24.8	2.9	1.9	5.1	2.9	13.0
	1人	162	25.8	4.8	23.5	3.1	5.3	7.0	4.8	15.6
	2人	74	26.8	5.2	23.3	3.7	6.6	7.7	4.6	14.9
	3人以上	43	26.5	7.0	23.5	5.2	7.1	8.8	4.4	16.8
60歳以上の人数	いない	124	26.3	5.8	23.5	3.6	4.6	6.3	3.6	16.1
	1人	62	25.3	4.2	23.9	2.8	6.3	7.9	5.1	15.1
	2人以上	119	26.4	4.8	23.5	3.8	6.0	7.9	5.2	14.8
40代・50代の人 数	いない	135	26.3	4.5	23.5	3.8	5.3	7.4	4.6	14.8
	1人	81	25.6	5.0	24.4	3.1	5.4	7.0	4.8	14.2
	2人以上	89	26.4	6.1	23.0	3.6	6.0	7.3	4.2	17.2
20代・30代の人 数	いない	186	25.9	4.6	23.7	2.9	5.0	6.8	4.6	15.1
	1人	75	26.6	5.8	23.2	4.6	6.4	7.5	4.5	14.7
	2人以上	44	26.4	6.1	23.8	4.4	6.2	8.8	4.4	17.6
19歳以下の人 数	いない	216	26.0	4.3	23.8	3.1	5.0	7.1	4.7	14.9
	1人	47	26.6	7.0	23.8	4.1	6.4	8.4	4.2	16.1
	2人以上	42	26.5	6.6	22.2	4.7	6.9	6.9	4.1	17.0
13~19歳の人 数	いない	263	26.1	4.8	23.6	3.3	5.1	7.2	4.5	15.4
	1人	31	26.5	7.5	23.8	4.3	7.1	8.1	4.7	15.7
	2人以上	11	25.5	6.1	21.6	5.6	9.0	7.1	5.4	13.1
12歳以下の人 数	いない	247	26.0	4.8	23.7	3.4	5.4	7.3	4.8	15.1
	1人	35	26.6	5.1	23.8	3.3	6.2	7.2	3.8	14.6
	2人以上	23	27.1	7.8	21.7	5.1	5.5	7.3	3.4	19.5

※平均値は回答者数のうち各家電の使用状況を記入した人のみの平均となっている(無記入者は基数に含めていない)。

【参考】前ページの平均使用時間・設定時間等の基数にした記入者数

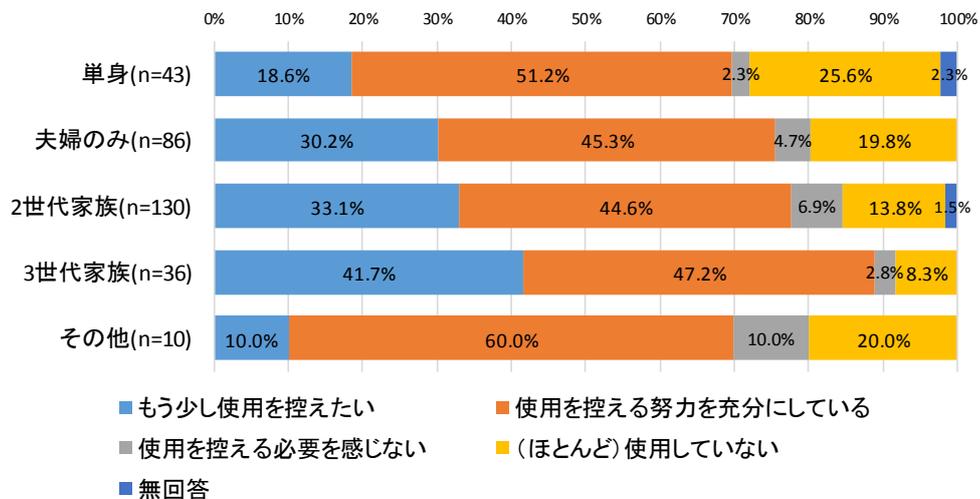
世帯の状況	区分	回答者数	エアコン(冷房時)		エアコン(暖房時)		その他の暖房器具	居間・台所の照明器具	テレビ	
			設定温度	1日の使用時間	設定温度	1日の使用時間	1日の使用時間	1日の使用時間	1日の視聴時間	主電源が入っている時間
世帯の構成	単身	43	34	41	26	35	39	40	41	34
	夫婦のみ	86	71	79	54	74	73	84	83	75
	2世代家族	130	117	122	74	112	114	120	125	120
	3世代家族	36	35	35	26	31	29	36	35	33
	その他	10	9	9	7	9	8	10	10	7
世帯人数	1~2人	138	111	126	85	116	119	131	133	117
	3人	76	66	71	44	67	68	70	71	66
	4人以上	91	89	89	58	78	76	89	90	86
男性の人数	いない	31	27	28	19	23	24	27	29	25
	1人	163	137	151	102	143	142	157	156	140
	2人	75	67	71	43	64	69	70	73	68
	3人以上	36	35	36	23	31	28	36	36	36
女性の人数	いない	26	18	24	16	23	25	26	25	22
	1人	162	138	151	97	138	140	153	156	141
	2人	74	68	69	43	62	60	68	71	65
	3人以上	43	42	42	31	38	38	43	42	41
60歳以上の人数	いない	124	112	118	80	108	107	120	117	108
	1人	62	52	57	30	48	56	57	60	50
	2人以上	119	102	111	77	105	100	113	117	111
40代・50代的人数	いない	135	115	124	89	118	112	127	131	120
	1人	81	69	77	45	69	75	76	79	69
	2人以上	89	82	85	53	74	76	87	84	80
20代・30代的人数	いない	186	155	175	111	161	164	179	180	159
	1人	75	68	69	48	66	63	67	72	70
	2人以上	44	43	42	28	34	36	44	42	40
19歳以下的人数	いない	216	180	199	125	180	188	202	208	190
	1人	47	45	46	32	41	39	47	44	40
	2人以上	42	41	41	30	40	36	41	42	39
13~19歳的人数	いない	263	226	246	158	223	223	249	254	234
	1人	31	30	30	22	28	30	30	29	27
	2人以上	11	10	10	7	10	10	11	11	8
12歳以下的人数	いない	247	209	228	145	207	218	233	237	214
	1人	35	34	35	25	32	26	34	34	32
	2人以上	23	23	23	17	22	19	23	23	23

### 3.2.5 世帯状況別にみた家電の使用状況に対する自己評価

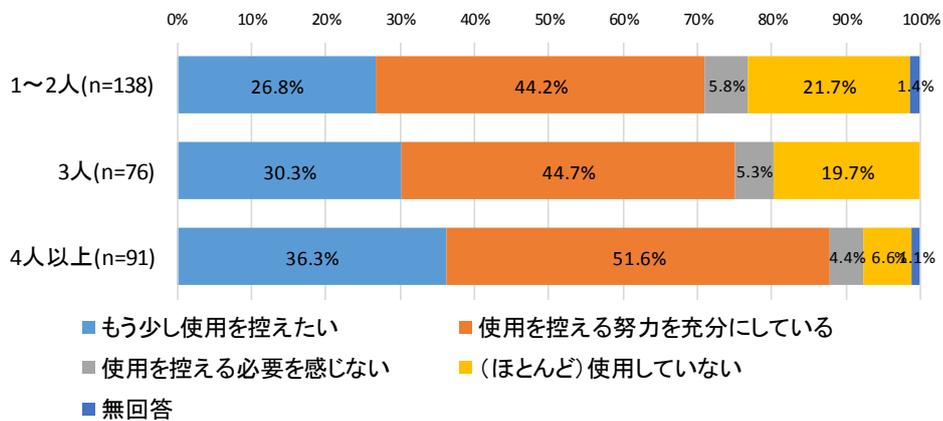
#### 3.2.5.1 エアコン（冷房時）

- 冷房時のエアコンは、多世代の家庭、世帯人数の多い家庭ほど、もう少し使用を抑えたいという回答割合が高くなっている。
- 世帯の中の女性の人数が多くなるほど、使用を抑える努力を充分にしている、もう少し使用を抑えたいと答えた割合がともに高くなる傾向が男性よりも明確に表れているほか、女性のいない世帯では4割近くが冷房時にはエアコンを使用していない結果になっている。
- 12歳以下の人数が多くなるほど、もう少し使用を抑えたいと答えた割合が高くなっている。

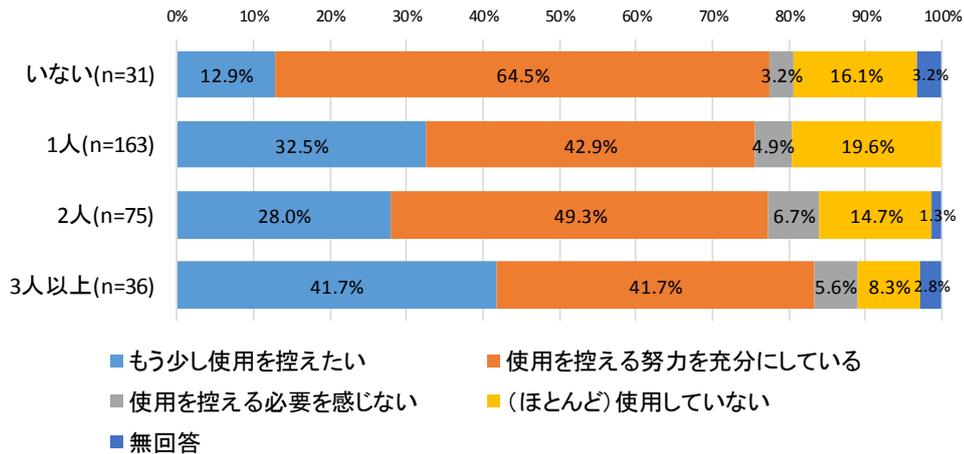
● 問1：世帯の構成×問4-1：エアコン(冷房時)の使用状況についての自己評価



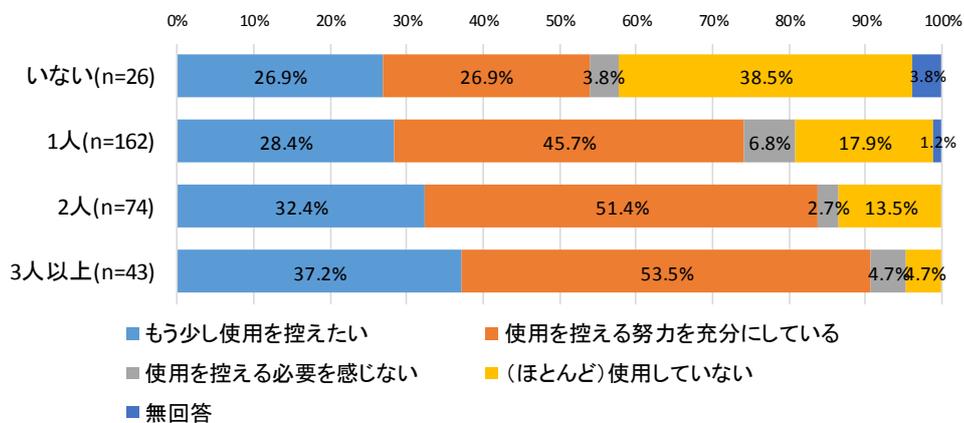
● 問2：世帯人数×問4-1：エアコン(冷房時)の使用状況についての自己評価



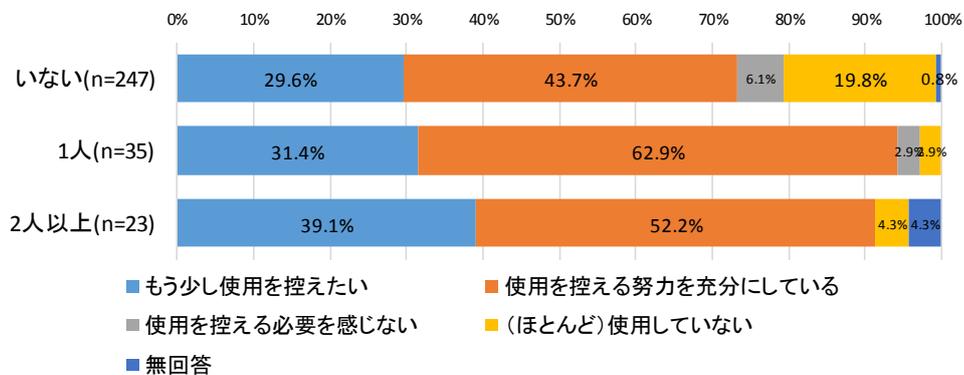
●問2：世帯の中の男性の人数×問4-1：エアコン(冷房時)の使用状況についての自己評価



●問2：世帯の中の女性の人数×問4-1：エアコン(冷房時)の使用状況についての自己評価



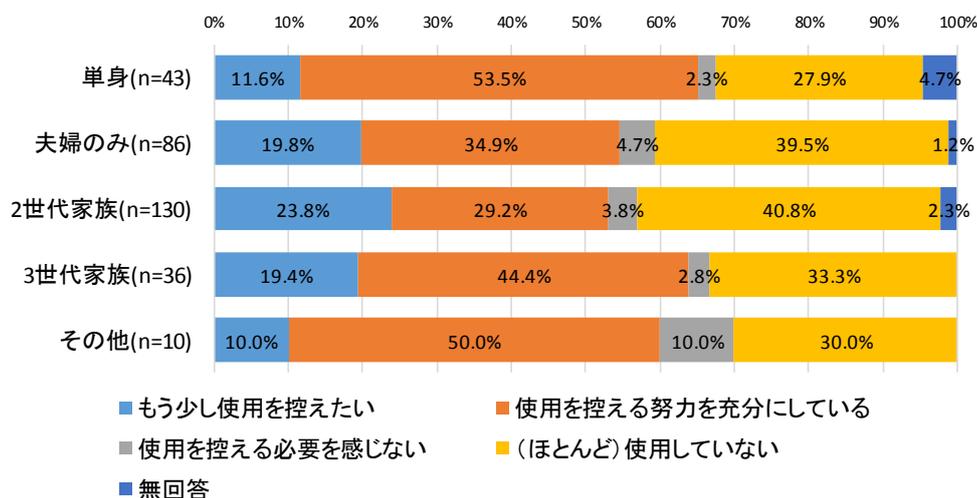
●問2：世帯の中の12歳以下の人数×問4-1：エアコン(冷房時)の使用状況についての自己評価



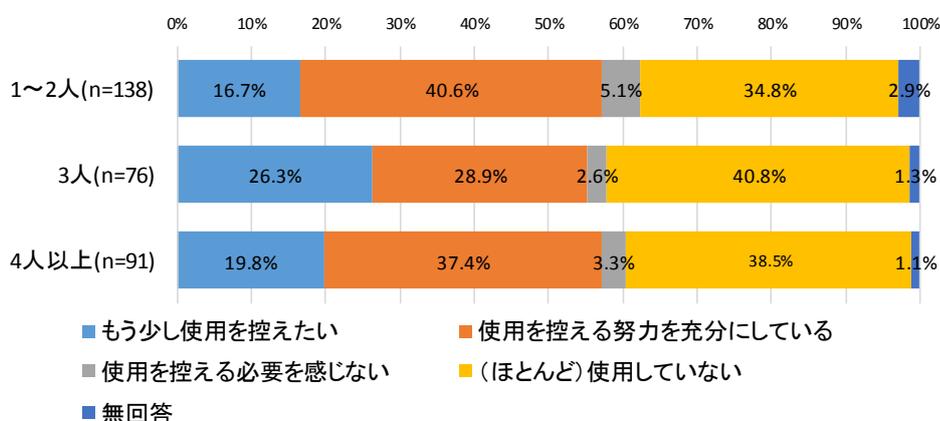
### 3.2.5.2 エアコン（暖房時）

- 暖房時のエアコンについては、2 世代家族、3 人家族でもう少し使用を抑えたいと答えた割合が比較的高くなっている。
- 男性がいない世帯では、7 割強が使用を抑える努力を充分にしていると答えており、もう少し使用を抑えたいはゼロとなっている。
- 12 歳以下の子どもが 2 名以上の家庭で、もう少し使用を抑えたいと答えた割合が高くなっている。

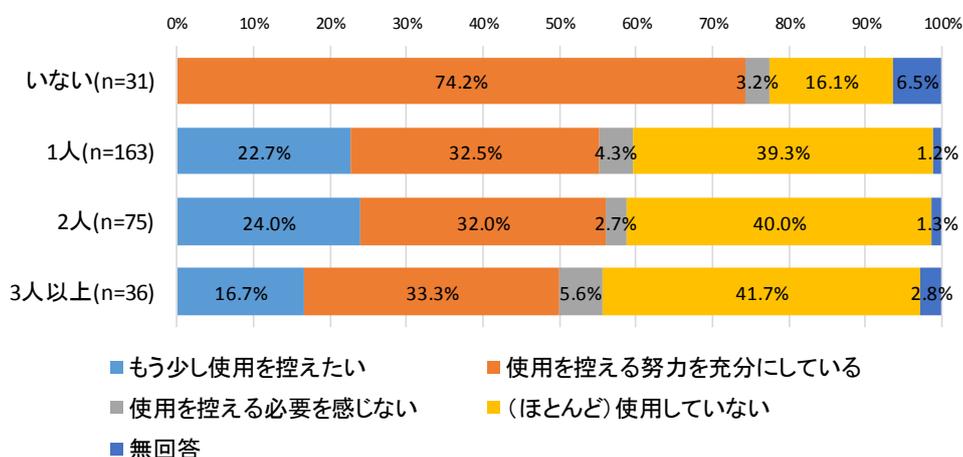
● 問1：世帯の構成×問4-2：エアコン(暖房時)の使用状況についての自己評価



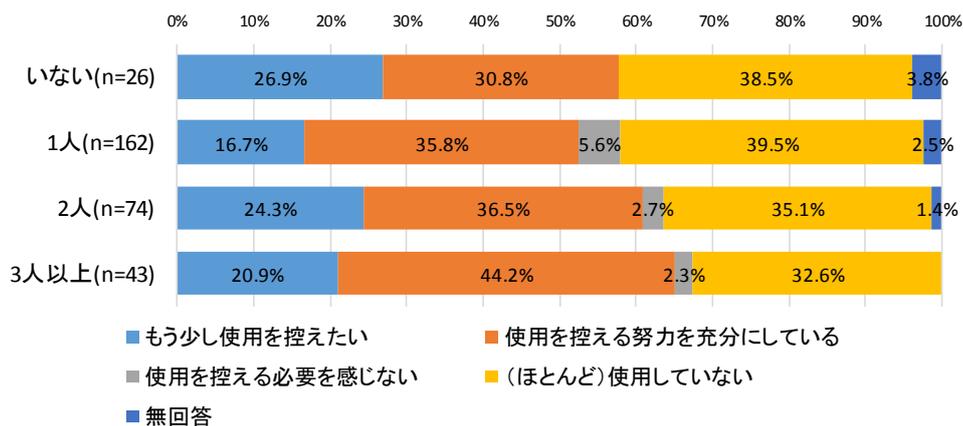
● 問2：世帯人数×問4-2：エアコン(暖房時)の使用状況についての自己評価



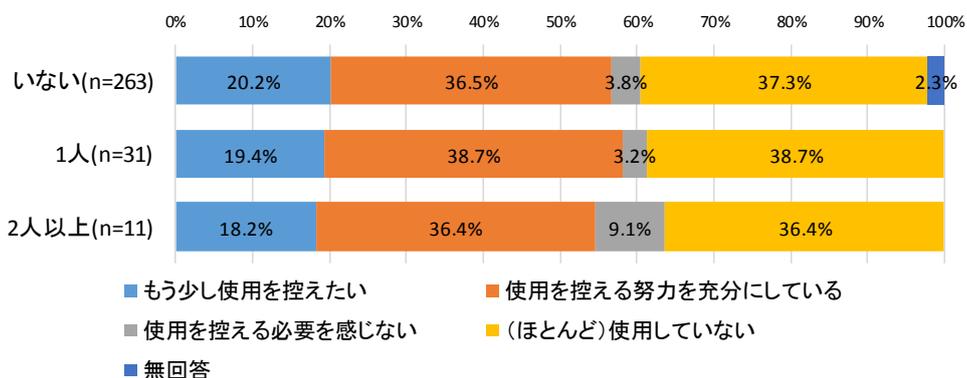
● 問2：世帯の中の男性の人数×問4-2：エアコン(暖房時)の使用状況についての自己評価



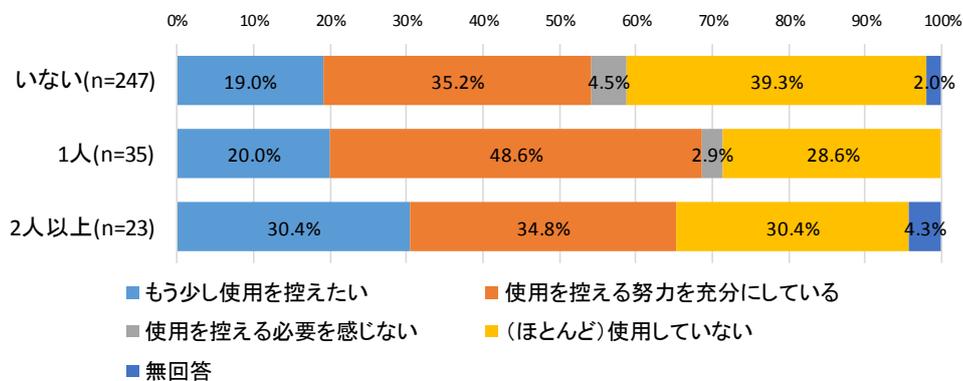
●問2：世帯の中の女性の人数×問4-2：エアコン(暖房時)の使用状況についての自己評価



●問2：世帯の中の13歳～19歳の人数×問4-2：エアコン(暖房時)の使用状況についての自己評価



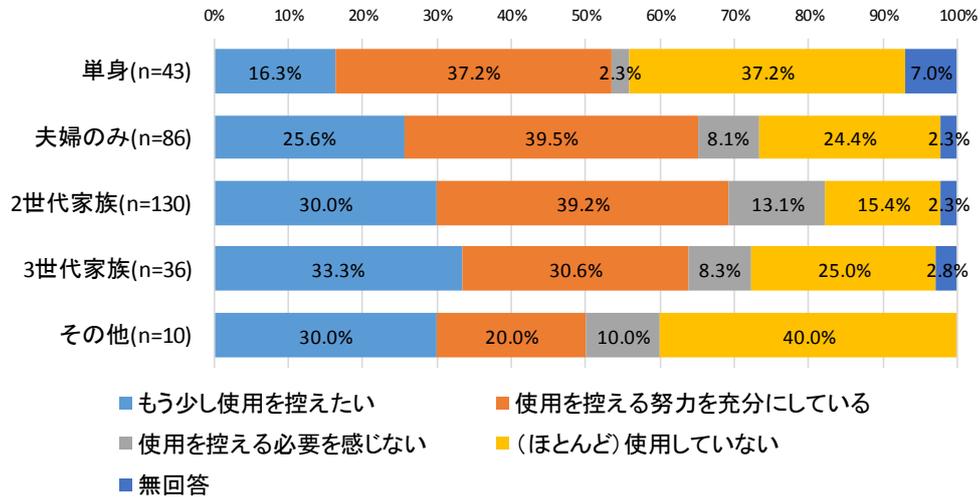
●問2：世帯の中の12歳以下の人数×問4-2：エアコン(暖房時)の使用状況についての自己評価



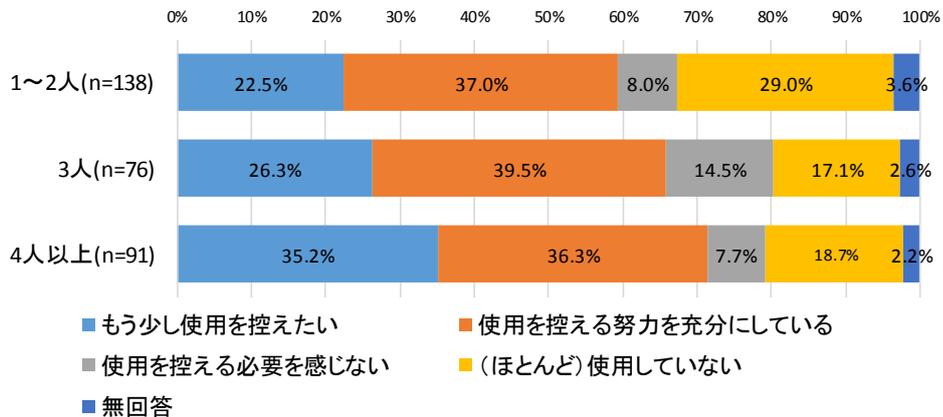
### 3.2.5.3 その他の暖房器具

- その他の暖房器具は、多世代の家庭、世帯人数の多い家庭、女性の人数が多い家庭ほど、もう少し使用を控えたいという回答割合が高くなっている。
- 平均使用時間が長くなる傾向がみられる13歳～19歳のいる家庭では、13歳～19歳が1人いる家庭でもう少し使用を控えたいと答えた割合が5割弱と高い。

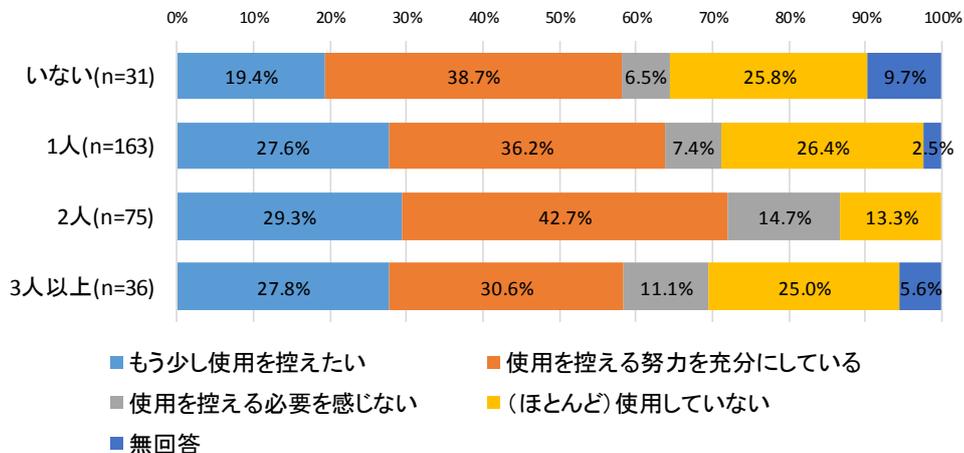
●問1：世帯の構成×問4-3：その他の暖房器具の使用状況についての自己評価



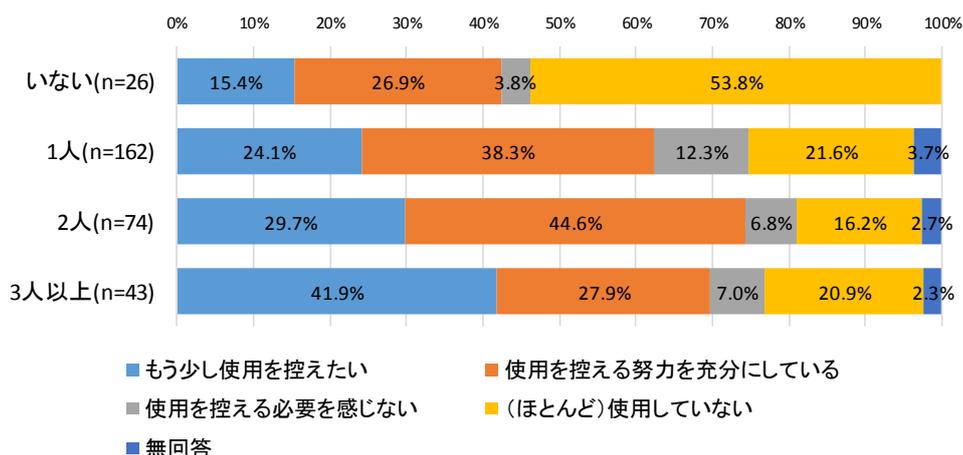
●問2：世帯人数×問4-3：その他の暖房器具の使用状況についての自己評価



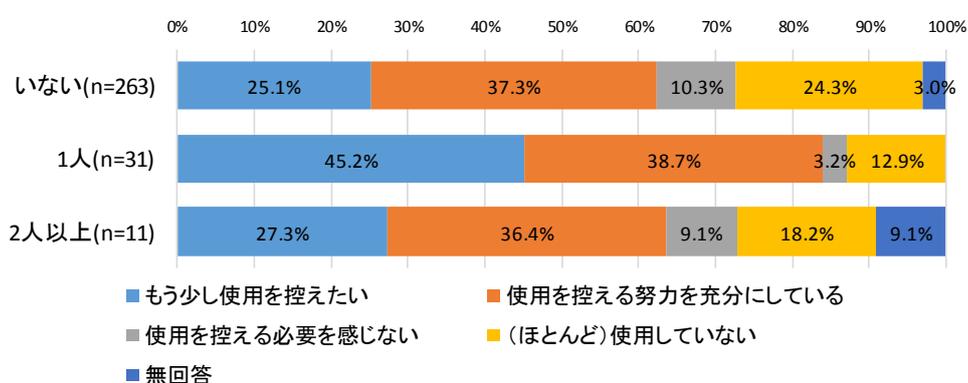
●問2：世帯の中の男性の人数×問4-3：その他の暖房器具の使用状況についての自己評価



●問2：世帯の中の女性の人数×問4-3：その他の暖房器具の使用状況についての自己評価



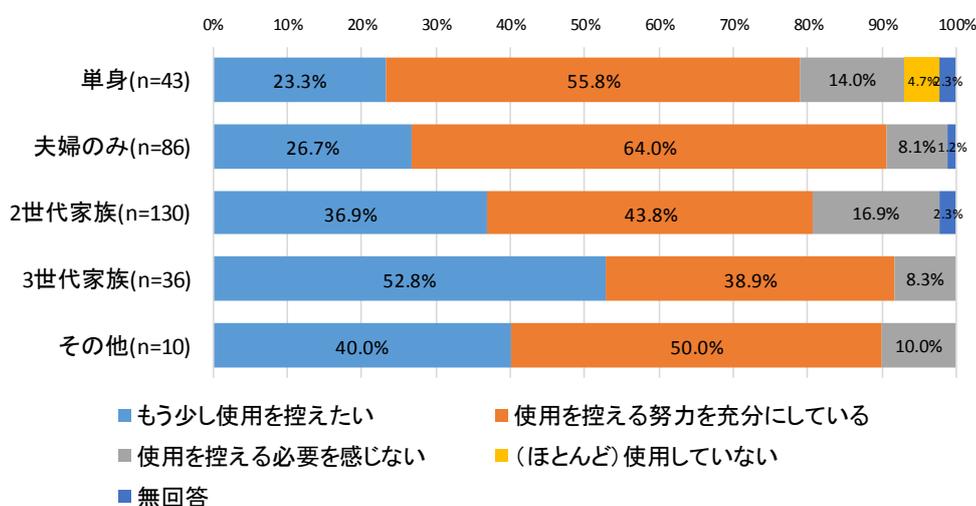
●問2：世帯の中の13歳～19歳の人数×問4-3：その他の暖房器具の使用状況についての自己評価



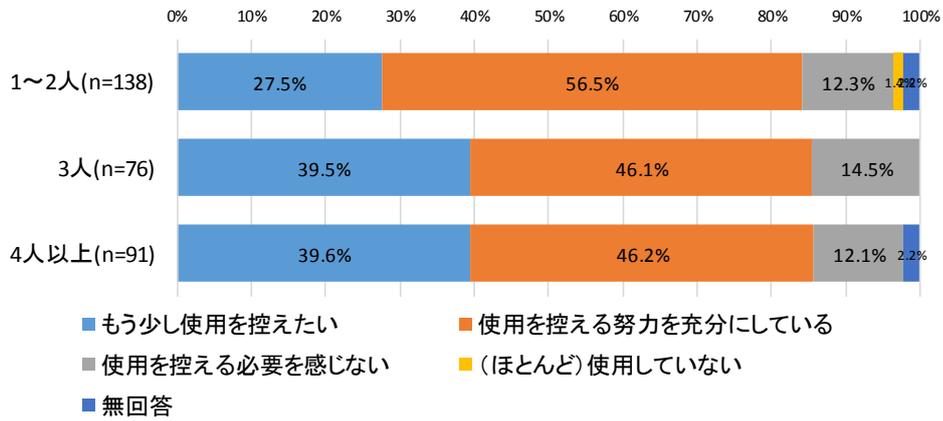
3.2.5.4 居間・台所の照明器具

- 照明器具についても、多世代の家庭、世帯人数の多い家庭、女性の人数が多い家庭ほど、もう少し使用を控えたいという回答割合が高くなる傾向がみられる。
- 平均使用時間の長くなる傾向がみられた 20代・30代のいる家庭では、その人数が多くなるほどもう少し使用を控えたいと答えた割合が高くなり、使用を控える努力を充分にしていると答えた割合が低くなっている。

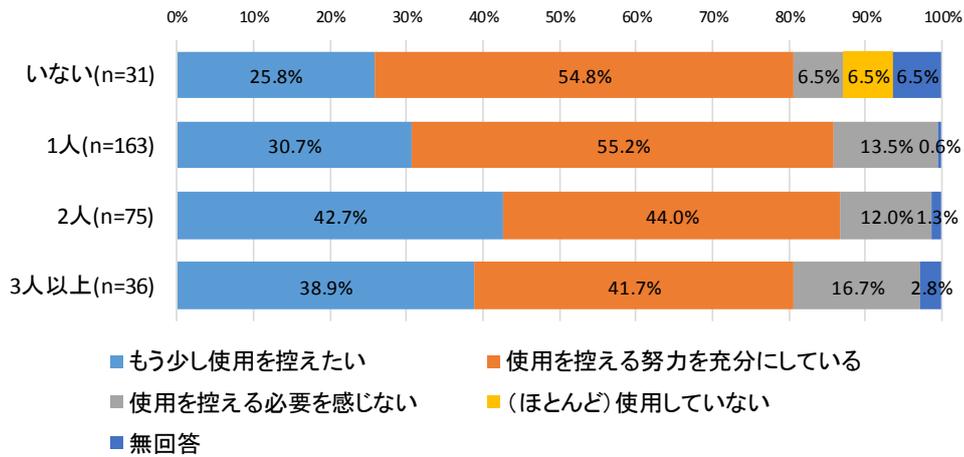
●問1：世帯の構成×問4-4：照明器具の使用状況についての自己評価



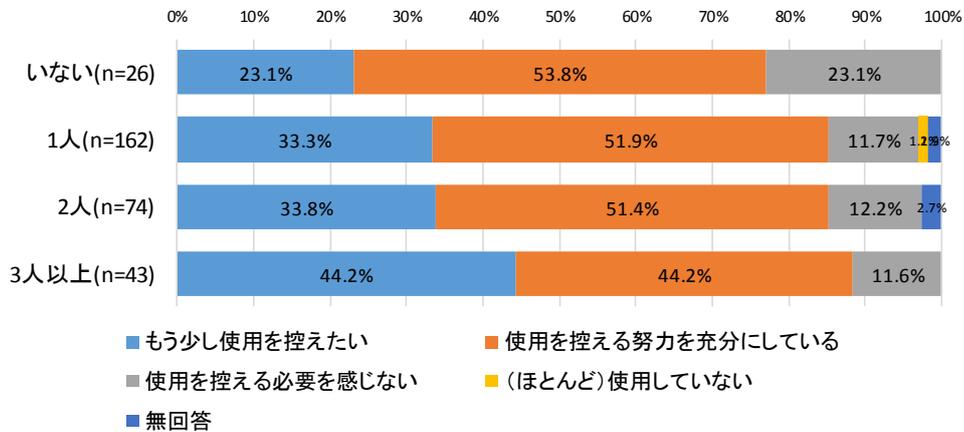
●問2：世帯人数×問4-4：照明器具の使用状況についての自己評価



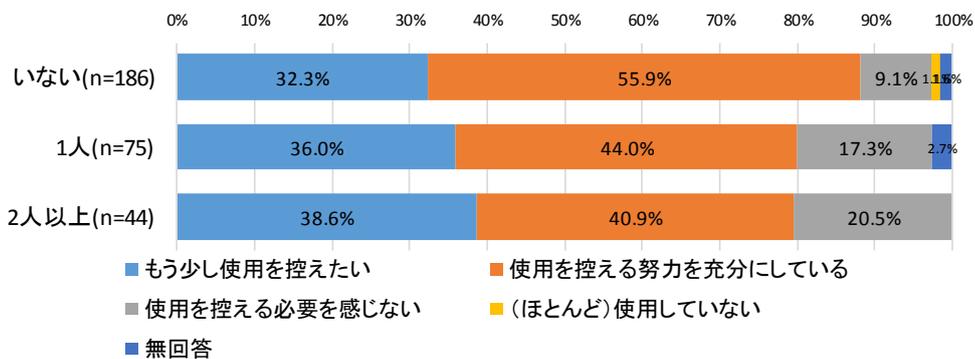
●問2：世帯の中の男性の人数×問4-4：照明器具の使用状況についての自己評価



●問2：世帯の中の女性の人数×問4-4：照明器具の使用状況についての自己評価



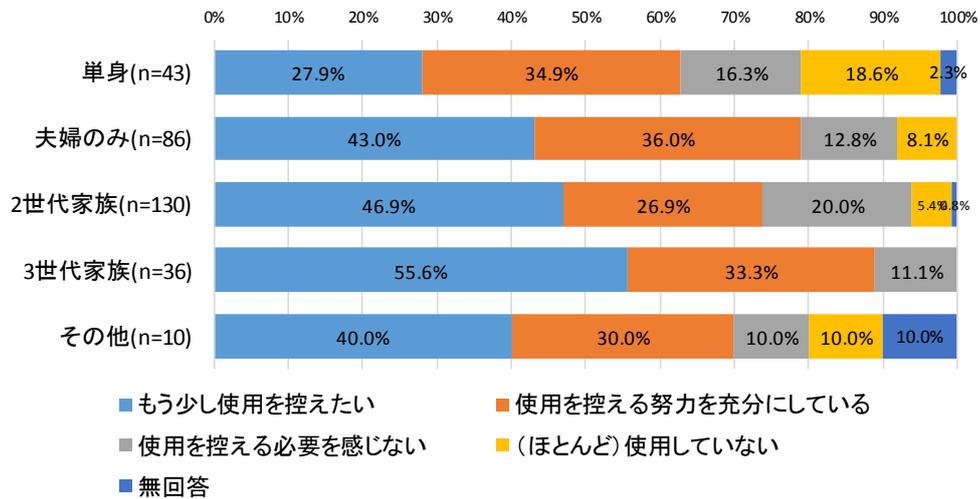
●問2：世帯の中の20代・30代の人数×問4-4：照明器具の使用状況についての自己評価



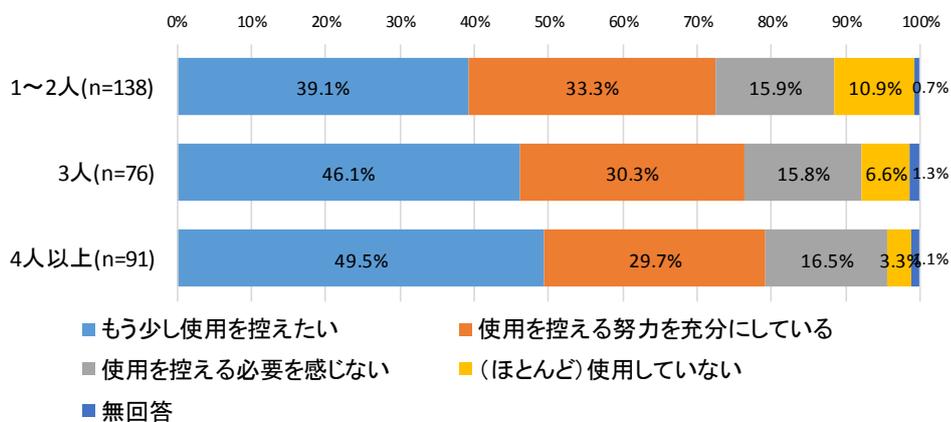
### 3.2.5.5 テレビ

- テレビについては、多世代の家庭、世帯人数の多い家庭、男性の人数が多い家庭ほど、もう少し使用を控えたいという回答割合が高くなると同時に、使用を控える努力を充分にしていると答えた割合が低くなる傾向がみられる。
- 女性の人数が多い家庭ほど、もう少し使用を控えたいという回答割合が高くなる傾向がみられる。
- 視聴時間の短くなる傾向がみられた12歳以下のいる家庭では、その人数が多くなるほど、もう少し使用を控えたいと答えた割合が低くなり、使用を控える努力を充分にしていると答えた割合が高くなっている。

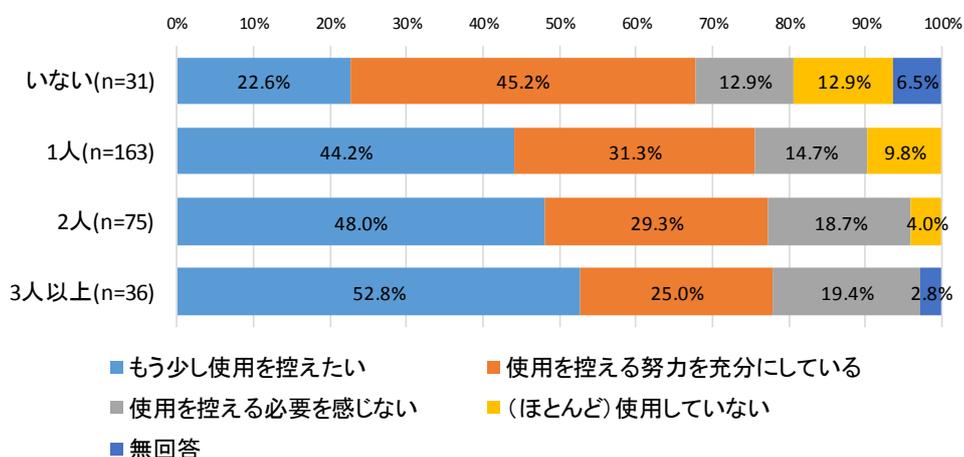
● 問1：世帯の構成×問4-5：テレビの使用状況についての自己評価



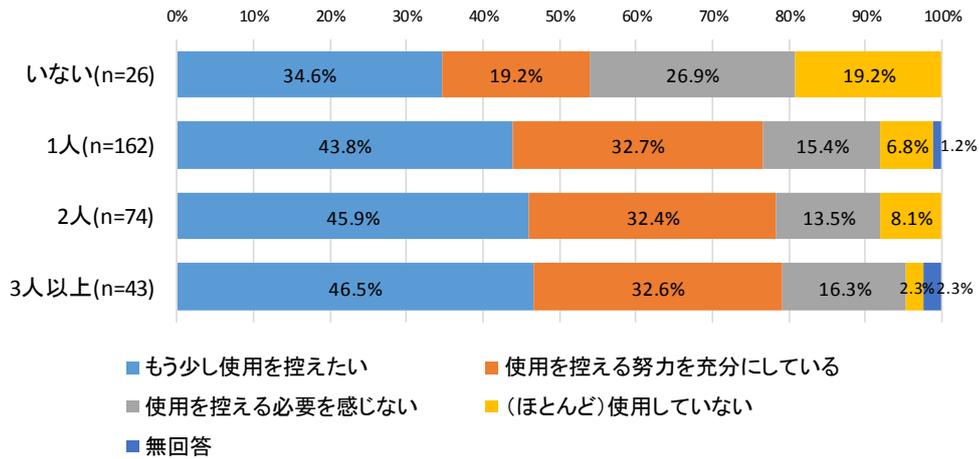
● 問2：世帯人数×問4-5：テレビの使用状況についての自己評価



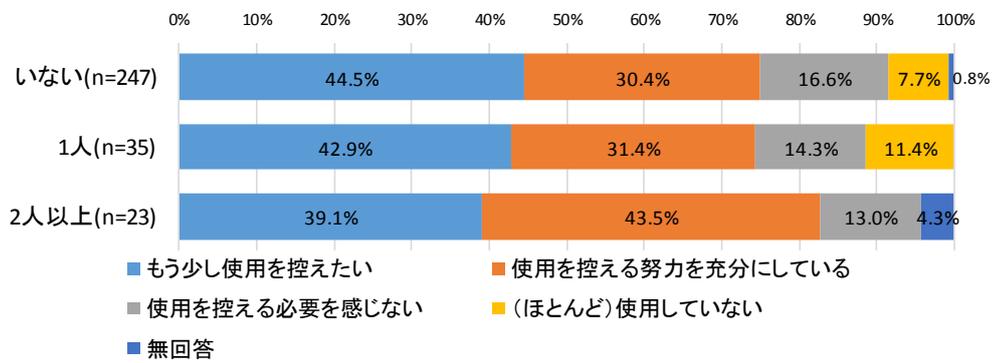
● 問2：世帯の中の男性の人数×問4-5：テレビの使用状況についての自己評価



●問2：世帯の中の女性の人数×問4-5：テレビの使用状況についての自己評価



●問2：世帯の中の12歳以下の人数×問4-5：テレビの使用状況についての自己評価



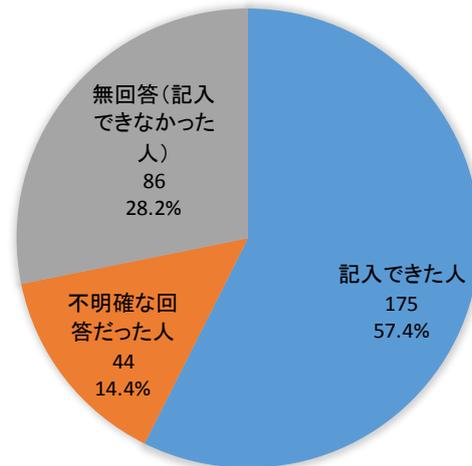
### 3.3 家庭でのエネルギー使用状況

#### 3.3.1 電気・ガス等の使用料金の記入状況

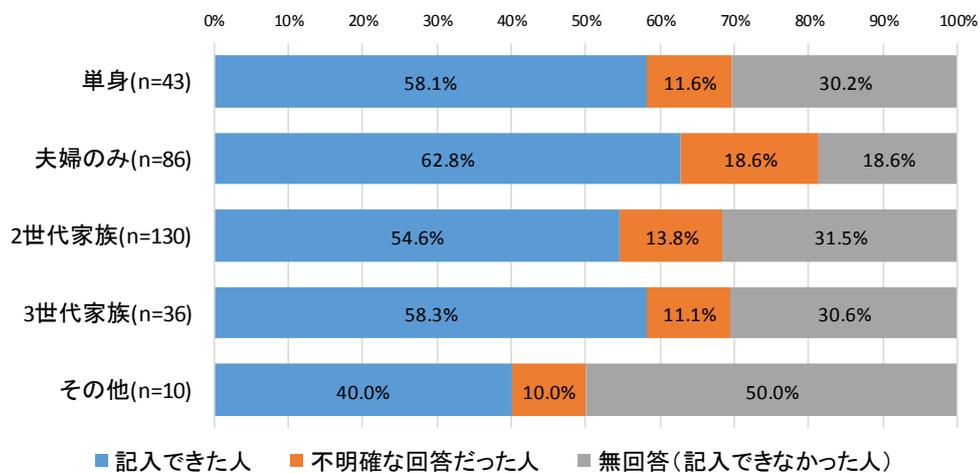
- 電気・ガス等の春夏秋冬それぞれのひと月の使用料金について尋ねた設問では、記入できた回答者が6割弱、きにゆうできなかった回答者が3割弱ほどいた。
- 夫婦のみ世帯や、世帯人数が少ない家庭ほど記入率が高くなっている。
- 13歳～19歳の子ども数が増えるほど記入率が下がり、反対に12歳以下の子ども数が増えるほど記入率が高くなる傾向がみられる。

##### ● 電気・ガス等の使用料金（使用量）の記入の可否

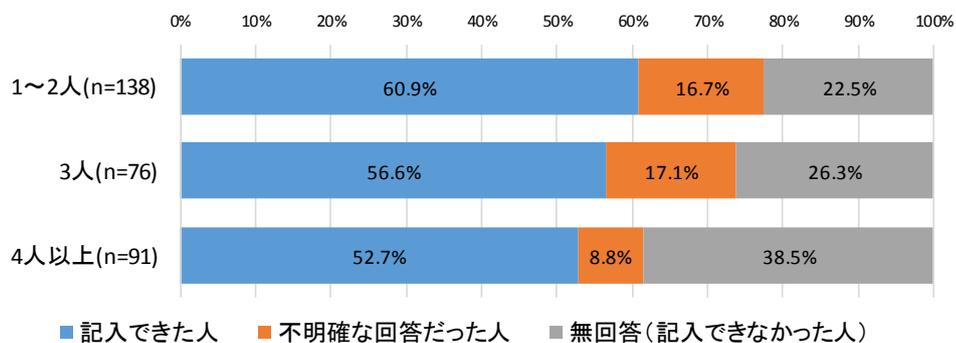
(n=305)



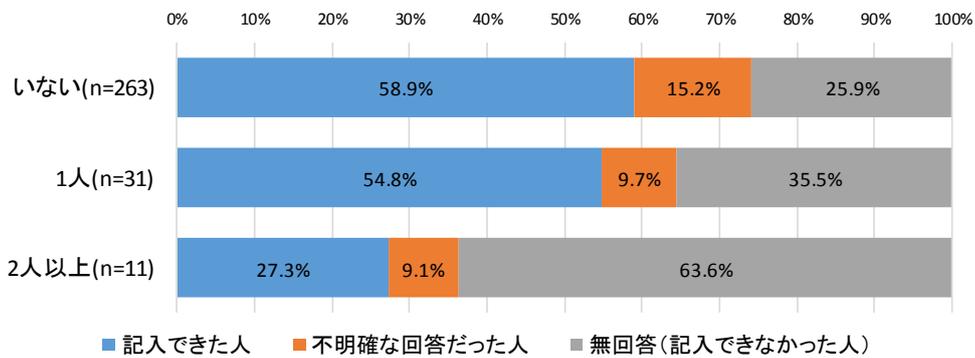
##### ● 問1：世帯の構成×問5：電気・ガス等の使用料金の記入の可否



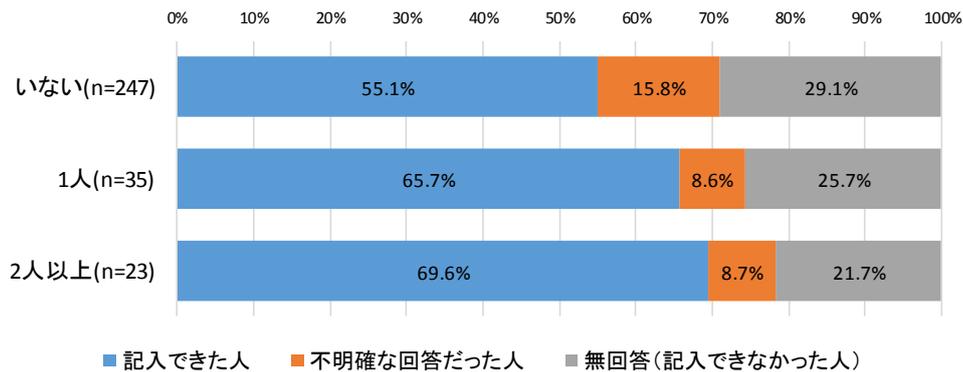
##### ● 問2：世帯人数×問5：電気・ガス等の使用料金の記入の可否



●問2：世帯の中の13歳～19歳の人数×問5：電気・ガス等の使用料金の記入の可否



●問2：世帯の中の12歳以下の人数×問5：電気・ガス等の使用料金の記入の可否



### 3.3.2 電気・ガス等の使用による年間 CO2 排出量

- 本調査で、各家庭で電気・ガス等の使用による年間 CO2 排出量の平均値は 3,010kg となった。
- 世帯人数が多くなるほど、また多世代家族ほど CO2 排出量は多くなっている。
- 男性のいない世帯と女性のいない世帯では、女性のいない世帯の CO2 排出量が少ない。また女性 3 人以上の世帯の CO2 排出量が顕著に多くなる傾向がみられる。
- 人数が多くなるほど CO2 排出量が多くなる傾向が、60 代以上の人数では伸びが小さく、40 代・50 代、20 代・30 代に比べて小さい。
- 子どものいる世帯では、特に 13 歳～19 歳のいる世帯で、その人数が多くなるほど CO2 排出量が多くなる傾向が目立つ結果になっている。

●電気・ガス等のエネルギー使用量を一年間に排出等したCO2量に換算

項目	記入者数	CO2量 (記入平均値)
電気	219	2,124 kg
都市ガス	163	867 kg
LPG(プロパンガス)	24	924 kg
灯油	66	461 kg
<b>a. 各家庭のエネルギー使用の合計(※)</b>	<b>219</b>	<b>3,010 kg</b>
b. ソーラー発電等による売電量	9	2,990 kg
<b>c=a-b</b>	<b>219</b>	<b>2,887 kg</b>

※回答者個々の家庭の使用エネルギーをの合計をCO2排出量に換算した値の「平均」であり、エネルギー4種の合計ではない。

●世帯人数別のCO2排出量

(各回答者の家庭のエネルギー使用量を一年間のCO2排出量に換算した値の平均値)

項目	記入者数	CO2量 (平均値)
1人	31	1,402 kg
2人	76	2,643 kg
3人	56	3,282 kg
4人	32	3,696 kg
5人以上	24	4,696 kg
全回答者	219	3,010 kg

●世帯構成別のCO2排出量

(各回答者の家庭のエネルギー使用量を一年間のCO2排出量に換算した値の平均値)

項目	記入者数	CO2量 (平均値)
単身	30	1,426 kg
夫婦のみ	70	2,651 kg
2世代家族	89	3,476 kg
3世代家族	25	4,337 kg
その他	5	2,582 kg
全体	219	3,010 kg

世帯の状況	区分	記入者数 (n)	年間CO2排出量 (平均値)単位:kg
男性の人数	いない	23	1,867
	1人	123	2,725
	2人	50	3,909
	3人以上	23	3,717
女性の人数	いない	17	1,329
	1人	125	2,797
	2人	48	3,377
	3人以上	29	4,304

世帯の状況	区分	記入者数 (n)	年間CO2排出量 (平均値)単位:kg
60歳以上の人数	いない	82	2,802
	1人	53	3,097
	2人以上	84	3,157
40代・50代的人数	いない	104	2,622
	1人	55	2,878
	2人以上	60	3,801
20代・30代的人数	いない	136	2,714
	1人	53	3,232
	2人以上	30	3,957
19歳以下的人数	いない	158	2,792
	1人	34	3,587
	2人以上	27	3,557

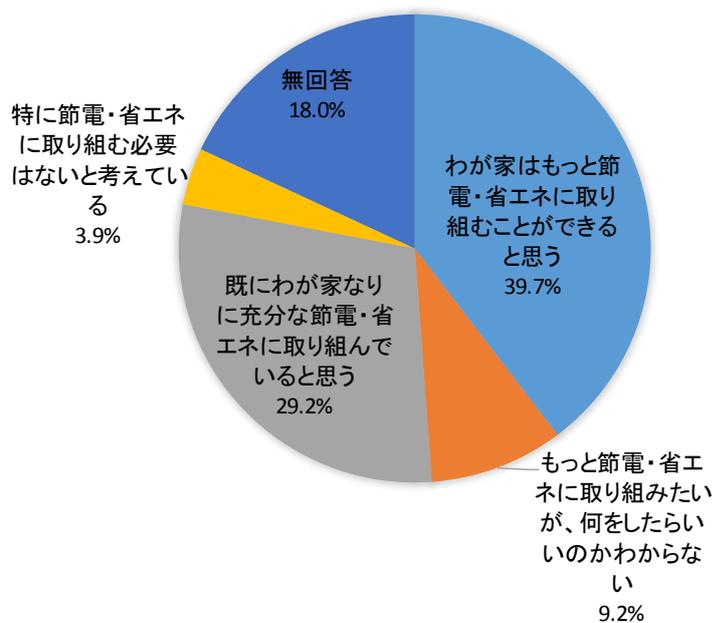
世帯の状況	区分	記入者数 (n)	年間CO2排出量 (平均値)単位:kg
13~19歳的人数	いない	195	2,911
	1人	20	3,786
	2人以上	4	3,953
12歳以下的人数	いない	175	2,891
	1人	26	3,466
	2人以上	18	3,506

### 3.3.3 電気・ガス等の使用状況に対する自己評価

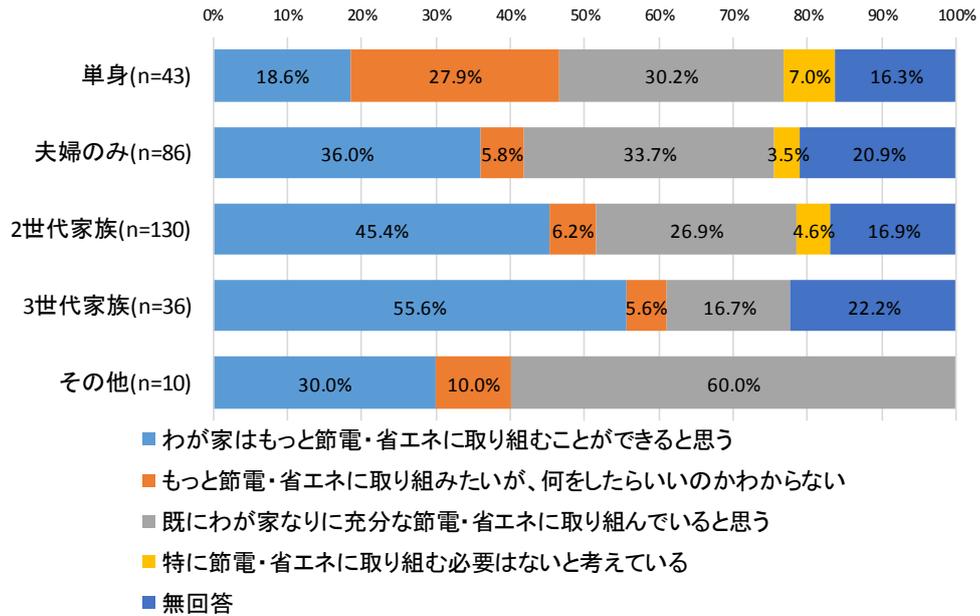
- 電気・ガス等の使用状況に対する自己評価では、わが家はもっと節電・省エネに取り組むことができると答えた回答者が約 4 割で最多となっており、次いで、既にわが家なりに十分な節電・省エネに取り組んでいると思うが約 3 割となっている。
- 特に節電・省エネに取り組む必要はないと考えている割合はごく僅かという結果になっている。
- 世帯状況別にみると、多世代家族、世帯人数が多い家族ほどわが家はもっと節電・省エネに取り組むことができると答えた割合が高くなっており、世帯人数が少ない世帯や単身世帯の回答者でもっと節電・省エネに取り組みたいが、何をしたらいいのかわからないという回答割合が高くなってきている。
- 男性のいない世帯では、もっと節電・省エネに取り組むことができると答えた割合が低く、もっと取り組みたいが何をしたらいいのかわからないと答えた割合が高くなってきている。また、男性が 3 人以上いる世帯の 7 割がもっと節電・省エネに取り組むことができると答えた割合が高くなってきている。
- 女性のいない世帯では、既に十分な節電・省エネに取り組んでいると答えた割合が比較的高い。
- 19 歳以下の子どもがいる家庭は、いない家庭に比べてもっと節電・省エネに取り組むことができると思う割合が高くなる傾向がみられ、特に 12 歳以下のいる家庭で、いない家庭よりも高くなる傾向が顕著になっている。

#### ● 問6：電気・ガス等使用状況に対する自己評価

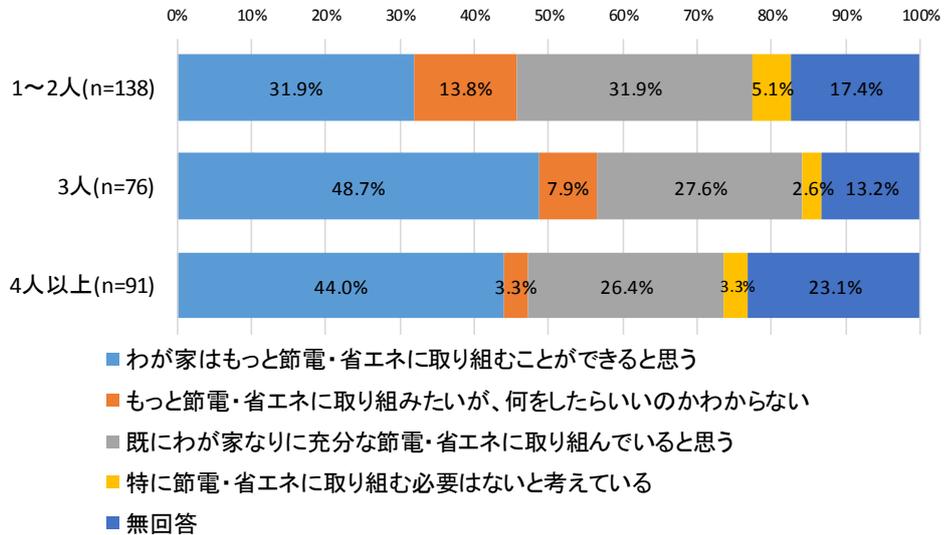
(n=305)



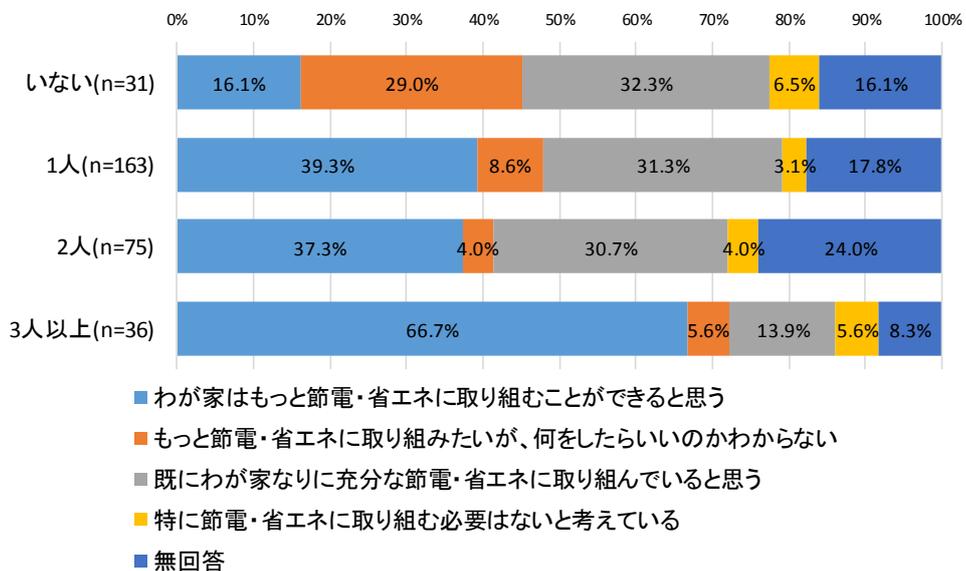
●問1：世帯の構成×問6：エネルギー使用量に対する自己評価



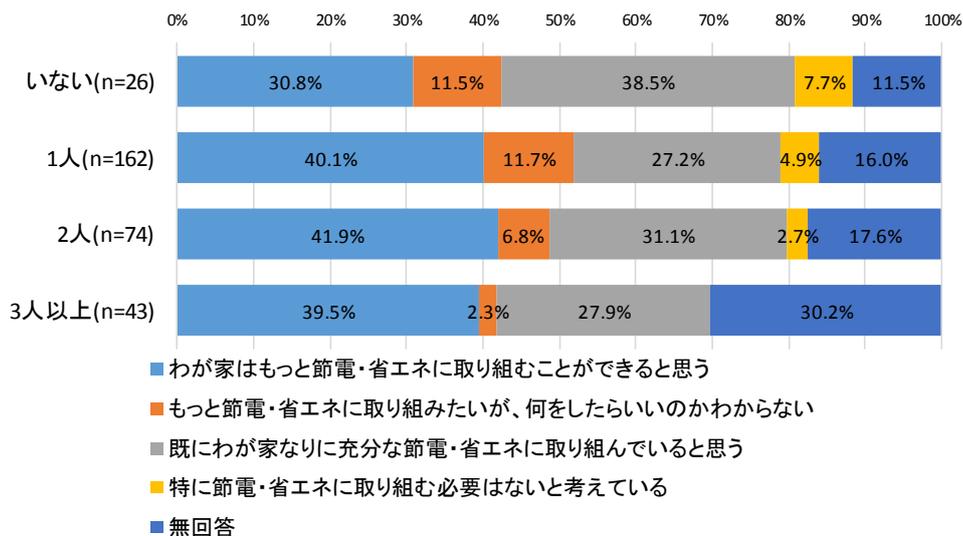
●問2：世帯人数×問6：エネルギー使用量に対する自己評価



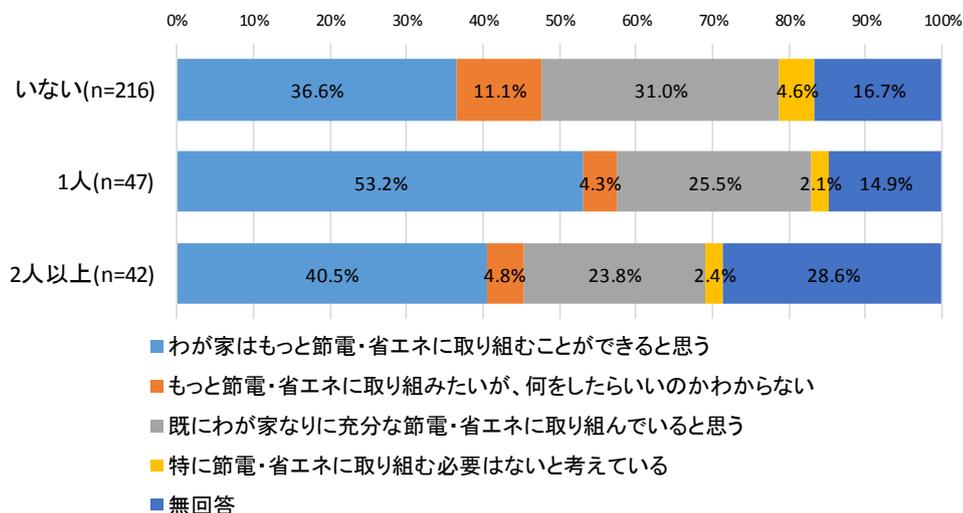
●問2：世帯の中の男性の人数×問6：エネルギー使用量に対する自己評価



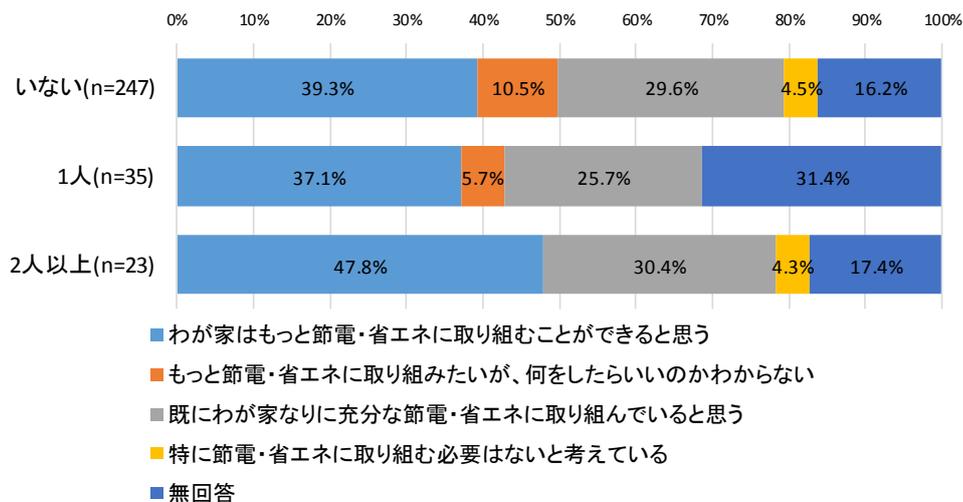
●問2：世帯の中の女性の人数×問6：エネルギー使用量に対する自己評価



●問2：世帯の中の19歳以下の人数×問6：エネルギー使用量に対する自己評価



●問2：世帯の中の12歳以下の人数×問6：エネルギー使用量に対する自己評価



### 3.3.4 エネルギー使用状況に対する自己評価別に見た CO2 排出量

- エネルギー使用状況別に年間 CO2 排出量の平均値をみると、「①わが家はもっと節電・省エネに取り組むことができると思う」、「②もっと節電・省エネに取り組みたいが、何をしたらいいのかわからない」のいずれかと答えた家庭よりも、「③既にわが家なりに十分な節電・省エネに取り組んでいると思う」、「④特に節電・省エネに取り組む必要はないと考えている」と答えた家庭の方が CO2 排出量は少なくなっている。
- ①②を「更なる取組が必要」と認識している層とし、③④を現状の取組状況で良いと認識している層として設定すると、世帯人数別にみても更なる取組が必要と認識している層より、現状の取組状況で良いと認識している層の方が CO2 排出量は少ない結果になっている。

#### ● エネルギー使用状況に対する自己評価別のCO2排出量

(各回答者の家庭のエネルギー使用量を一年間のCO2排出量に換算した値の平均値)

項目	記入者数	CO2量 (平均値)
わが家はもっと節電・省エネに取り組むことができると思う	121	3,270 kg
もっと節電・省エネに取り組みたいが、何をしたらいいのかわからない	28	3,325 kg
既にわが家なりに十分な節電・省エネに取り組んでいると思う	89	2,509 kg
特に節電・省エネに取り組む必要はないと考えている	12	2,492 kg
無回答	55	3,376 kg
全回答者	305	3,010 kg

#### ● 問6：エネルギー使用状況に対する自己評価×世帯人数別のCO2排出量（平均値）

	世帯人数			
	1～2人	3人	4人以上	全体
わが家はもっと節電・省エネに取り組むことができると思う	2,779 kg	3,297 kg	3,971 kg	3,270 kg
もっと節電・省エネに取り組みたいが、何をしたらいいのかわからない	2,999 kg	4,721 kg	2,317 kg	3,325 kg
既にわが家なりに十分な節電・省エネに取り組んでいると思う	1,724 kg	3,178 kg	3,413 kg	2,509 kg
特に節電・省エネに取り組む必要はないと考えている	2,280 kg	3,327 kg	1,885 kg	2,492 kg
無回答	1,969 kg	2,500 kg	6,157 kg	3,376 kg
全回答者	2,283 kg	3,282 kg	4,124 kg	3,010 kg

※データバーの表示がない箇所は記入者数が5人未満のデータ。

#### ● 問6：エネルギー使用状況に対する自己評価（再分類）×世帯人数別CO2排出量（平均値）

	世帯人数			
	1～2人	3人	4人以上	全体
更なる取組が必要	2,844 kg	3,469 kg	3,899 kg	3,280 kg
現状の取組状況が良い	1,790 kg	3,196 kg	3,343 kg	2,507 kg
無回答	1,969 kg	2,500 kg	6,157 kg	3,376 kg
全回答者	2,283 kg	3,282 kg	4,124 kg	3,010 kg

※データバーの表示がない箇所は記入者数が5人未満のデータ。

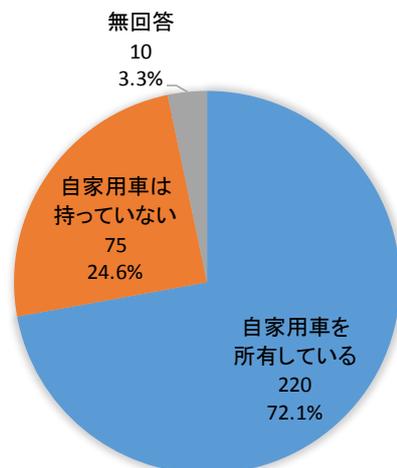
### 3.4 車の使用状況

#### 3.4.1 車の所有状況（所有の有無と所有台数）

- 車の所有状況について尋ねた設問では、7割が車を所有しており、2割強が所有していないと回答している。
- 車を所有している回答者に所有している台数を尋ねた設問では、約5割が1台と答えており、3割が2台と答えている。

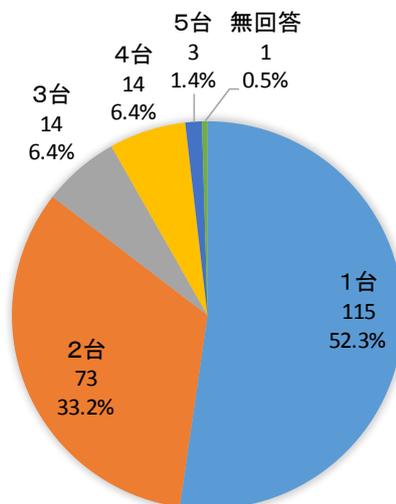
##### ● 問7：自家用車の所有の有無

(n=305)



##### ● 問8：所有する自家用車の台数

(n=220)



#### 3.4.2 車に係る燃料の使用状況

- 車の使用燃料を年間 CO2 排出量に換算したところ、車 1 台あたり平均 1,242kg となった。
- 車の所有台数が多くなるほど、CO2 排出量も多くなっているが、車 4 台以上で増加量の伸びが大きくなっている。

##### ● 問8：所有自家用車の台数×使用燃料のCO2排出量

(1年間の家庭全体での車の燃料代・使用量をCO2量に換算)

項目	記入者数	家庭全体における1年間の車の使用燃料によるCO2排出量(平均)
車1台を所有	102	1,242 kg
車2台を所有	61	2,675 kg
車3台を所有	12	3,207 kg
車4台を所有	12	5,674 kg
車5台を所有	2	5,071 kg
全体	189	2,151 kg

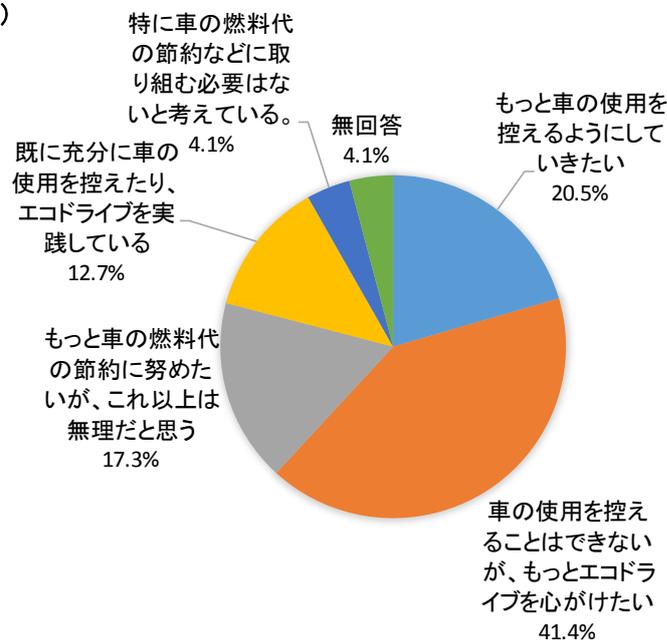
※使用燃料を記入した人だけの平均(無記入者は基数に含めていない)。

### 3.4.3 車の使用燃料に対する自己評価

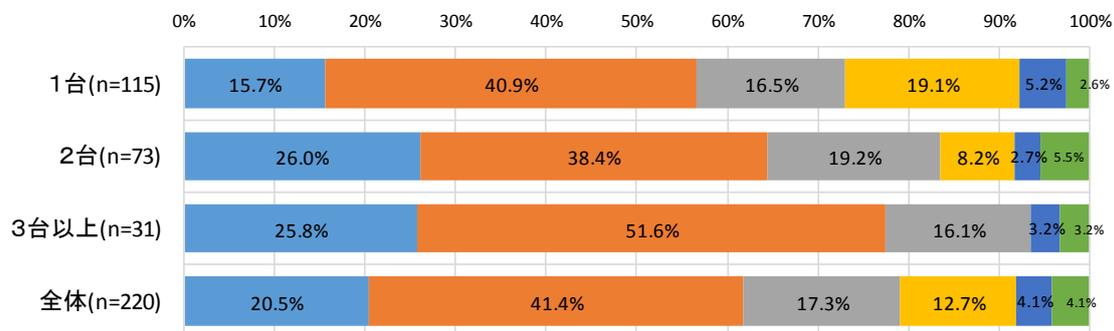
- 車の使用燃料に対する自己評価をみると、約 4 割が車の使用を抑えることができないが、もっとエコドライブを心がけたいと答えており、次いで、もっと車の使用を抑えるようにしていきたいが 2 割で多い。
- 車の所有台数が多くなるほど、車の使用を抑えることができないが、もっとエコドライブを心がけたいと答えた割合が高くなっていく。
- 世帯の中に男性がいない家庭では約 7 割が車の使用を抑えることができないが、もっとエコドライブを心がけたいと答えている。
- 世帯の中に 60 歳以上の人数が多くなるほど、もっと車の使用を抑えるようにしていきたいと答えた割合が高くなり、反対に車の使用を抑えることができないが、もっとエコドライブを心がけたいと答えた割合が低くなっていく。
- 19 歳以下の人数が多くなるほど、車の使用を抑えることができないが、もっとエコドライブを心がけたいと答えた割合が高くなっていく。

#### ● 問9：自家用車の燃料代（使用量）に対する自己評価

(n=220)

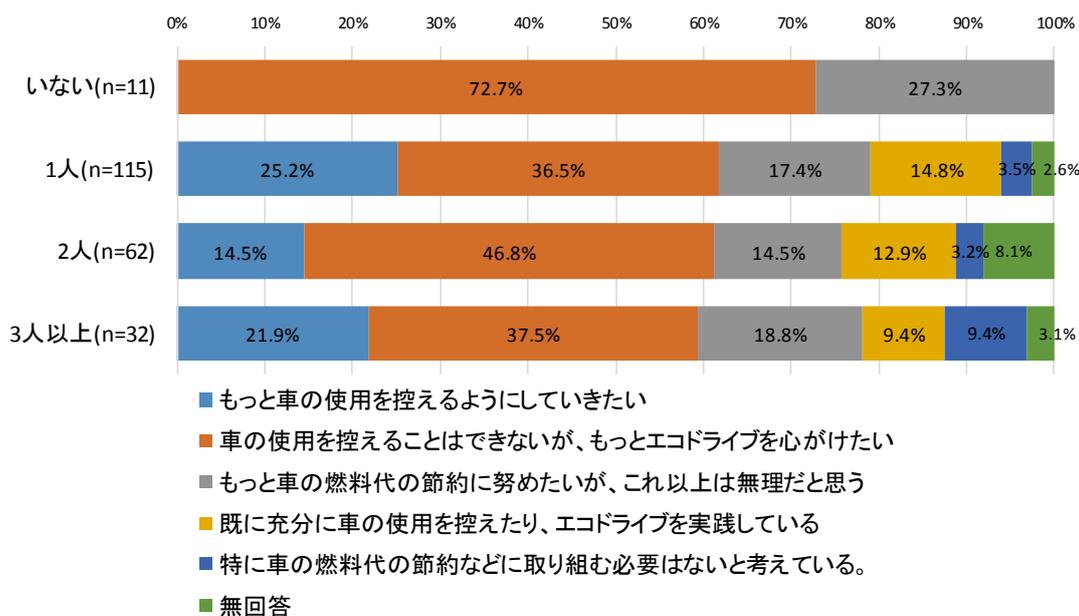


#### ● 問8：自家用車の所有台数×問9：自家用車の使用燃料代に対する自己評価

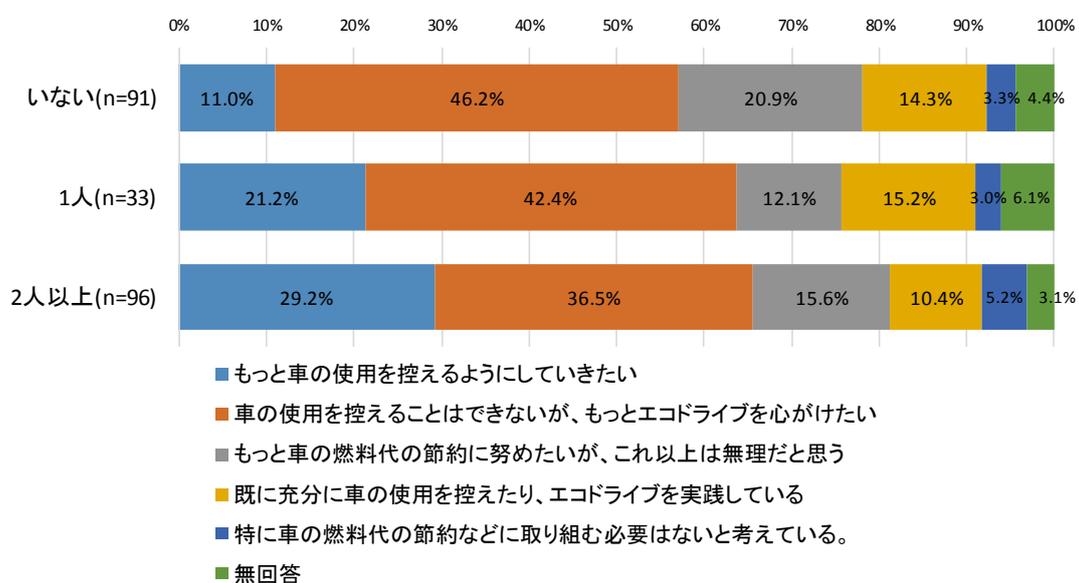


- もっと車の使用を抑えるようにしていきたい
- 車の使用を抑えることはできないが、もっとエコドライブを心がけたい
- もっと車の燃料代の節約に努めたいが、これ以上は無理だと思う
- 既に十分に車の使用を抑えたり、エコドライブを実践している
- 特に車の燃料代の節約などに取り組む必要はないと考えている。
- 無回答

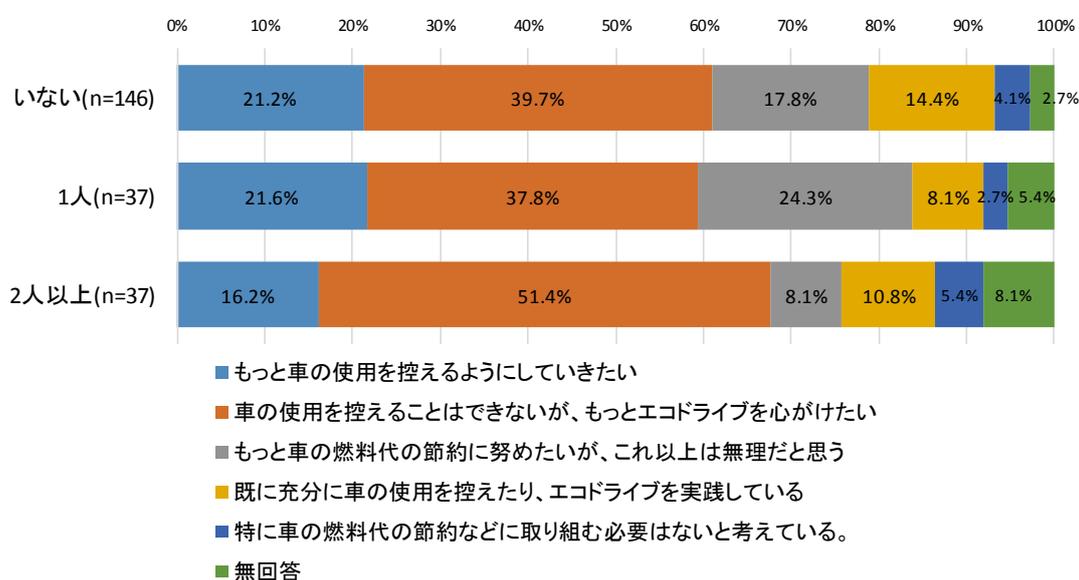
●問2：世帯の中の男性の人数×問9：車の燃料代に対する自己評価



●問2：世帯の中の60歳以上の人数×問9：車の燃料代に対する自己評価



●問2：世帯の中の19歳以下の人数×問9：車の燃料代に対する自己評価



### 3.4.4 車の使用燃料に対する自己評価別に見た CO2 排出量

- 車 1 台あたりの CO2 排出量を自己評価別にみると、車の使用を抑えることができないが、もっとエコドライブを心がけたいという回答者の平均 CO2 排出量が最も多く、既に十分に車の使用を抑えている、エコドライブを実践しているという回答者の平均 CO2 排出量が最も少ない結果になっている。

- 問9：自家用車の燃料代（使用量）に対する自己評価×車の使用燃料のCO2排出量  
（1台あたりの1年間の車の燃料代・使用量をCO2量に換算）

項目	記入者数	1台あたりの1年間の 使用燃料のCO2排 出量 (平均)
もっと車の使用を抑えるようにしていきたい	34	<b>1,236 kg</b>
車の使用を抑えることはできないが、もっとエコドライブを心がけたい	86	<b>1,393 kg</b>
もっと車の燃料代の節約に努めたいが、これ以上は無理だと思う	35	<b>1,234 kg</b>
既に十分に車の使用を抑えたり、エコドライブを実践している	26	<b>991 kg</b>
特に車の燃料代の節約などに取り組む必要はないと考えている。	7	<b>1,155 kg</b>
無回答	1	<b>1,268 kg</b>
全体	189	<b>1,271 kg</b>

※データバーの表示がない箇所は記入者数が5人未満のデータ。

## 4 資料編

### 4.1 自由記入欄に記述された意見

#### 4.1.1 家電の使用状況で使用を控えるようにしているその他の家電について

パソコンは使用する場合のみ主電力を入れない。
パソコン、プリンター、風呂。
毎日しようしている居間、台所等で多く利用しているので、昨年 LED 電球に変更した。風呂水は半分は洗濯用に、半分はバケツ 10 杯に保持し野菜の生長に寄与。電球ポットは 2 年前から廃止中。
便座のヒーター、調髪のためのコテのしよう（ヘアアイロン）、電気アイロンの使用。
冷蔵庫を買い換えて消費電力を下げたい。
電気ポット。
浴室でのガス使用。
電気カーペット。
電子レンジ。
主人がテレビのお守りをしているので、朝の散歩、買い物をなるべく外に出る（二人で）。
コンセントを抜くようにしている。
ヘアドライヤー。
パソコン。
テレビを見ていない時もつけてしまっているので（時計がわり）、控えたい。
電気カーペット。
風呂沸かし。
鑑賞魚類水槽（フィルター、照明、ヒーター）。
トイレの便座の温度を低くし、使用しない時間（深夜）は電源を切る。
廊下の照明は切っている。
使わない電気がまだあるような気がするので、気をつける。
便座暖房を切る。電子レンジのコンセントを抜く。
PC、ケータイ、スマホ。
使用時以外、コンセントを抜いている。
LED 照明へ変更している。
照明をできるだけこまめにする。
FM ラジオを聴き流している時間が長いので、興味のない番組の時は消すようにしたい。
パソコン。
炊飯器を土鍋に。
ポット
洗濯機（小さな物は手洗いしで実行）。
テレビの主電源を切るようにしている。
コンセントを抜く。
電子レンジ、オーブントースター、電気炊飯器。
照明時間とテレビ。

炊飯、電気ポットは使わない（持っていません）。
パソコン。
冷蔵庫の開閉を減らす。
障害のある子どもがいるので節電・省エネできない。
ケイタイの節電。
床暖房。
冷蔵庫の開け閉め。
パソコン。
大型テレビはあまりつけない。
お風呂を続けて入る。
必要のない電気をこまめに消す。
扇風機。
照明と子ども部屋の冷房。

#### 4.1.2 温暖化や節電・省エネに関する意見・疑問について

温暖化防止は一人ひとりの心掛けだけでは難しい。地球的規模で取り組むことが重要です。意識の啓発活動を進めることが大事だと思います。
全てに言えることですが、無関心、自分さえ良ければの考えの方が多く、一部の事柄を捉えて議論することも大切ですが、人間性の寛容を育てることが大事ではないだろうか。教育から論じるべきだと思います。
冬期は衣服に留意し、エアコン、ストーブなど暖房器具を全く使わないよう、極力努力している（部屋によっては）。
H25.9月より一人暮らしとなりましたので、電機使用量も-70~-90kwhとなりました。外のガス、灯油、水道も同じく減りました。
家庭での節電や省エネも大事ですが、オフィスや店舗（大・小を問わず）の節電・省エネを指導・規制することが全体として効果的ではないでしょうか。料金の従量制を採用したらどうでしょうか。
車の一台はEV車です。
①照明で屋外灯はLED、廊下・トイレもLED（人センサー付）。②エアコンの使用期間以外は主電源を切る（クランクケースヒータ10W節約）。③車はハイブリッド車ではない。10年以上前の車です。買い替えは考えていない。整備費が高額になった時とします。
今までにない大量の雨、竜巻、大きい災害が起きるのは、文明の発達への警告。一人ひとりが認識して少しでも昔の生活に戻すことだと思う。
節電・省エネについて、“何%削減”という目標ではなく、電気は“何kwh以下にする”、ガスは“何m3以下にする”、ガソリンは“・・・”というように、使用量の上限値を目標にする方が良い。なぜならば、現に浪費をしている場合には、数十%の削減をしても、なお、使用量は多いということがありうる。（ex○○kwh以下/人）
オイルヒーターを使っていますが、空気が汚れないということで購入しました。しかし電気代がかかります。節電・省エネと大気汚染が相反することがあると思います。どういう家電をどのように使ったら、一番いいのかわかりたい。
省エネに取り組んでいる家庭は少ない。もっと多くの市民にPRして実施普及拡大していく対策が不可欠。
高齢者がいるので暖房、TVの利用時間を減らすのは難しい。出来る範囲でこれからも取り組んでいきたい。
略良好と考えている。更に進めるには小さな家に、住み替える必要があるが、現状は良好な省エネ生活である。
毎日節電省エネに心掛けています。この頃の異常気象は地球温暖化が問題とも言われていますので、イベント等で子ども達に伝えていきたいと思っています。
低燃費車に換えていきたい（すぐHV車へ）。

CO2 排出削減のために原子力発電の利用を推進すべきである。
地球にやさしいと思うことは気が付けば即実行する・・・自分の行動の出来る範囲のみで！
太陽発電への補助金が高く、設置件数が急増し、接続を拒否する話が出ています。結果的にみると政府の政策の失敗のようです。但し早く設置した人にはかなりメリットのある制度です。これからは太陽光発電の弱点（天候に影響、夜間発電できない）を改善する新技術開発に期待しています。
わが家は家の向きが悪いので、日の光があまり入ってこないのに、暖房機を多く使いがちなので、少し控えた方がいいと思います。
使用時間及び使用を少なくする。電灯は順次LEDに変更。
LEDに変えました。電気はこまめに切ってます。
取り組んでいるつもりだが、まだできることはあるはず。そういう人に対して細かいヒントがあるといいと思う。
自動的に（タイマーで）切れる家電が増えると、もう少し簡単に節電ができると思います。
飯島秀行氏のフリーエネルギーに期待しています。
大人が環境に関心を持って生活してほしい。見本を見せるべきです。
もっと国の助成が必要。省エネ機器の普及、価格低下を図るため。
公民館は太陽電池（発電）を義務付ける方が良い。エクササイズ等運動エネルギーを発電として変換できれば一石二鳥と思う。小型の水力発電や風力発電も必要ですが、人の運動がエネルギー（電気）に変われば原発なんて必要ないと思う。
電力会社へ（国へも）ソーラー発電をもっと上手に運ぶ。
ご家庭での節電省エネのほかにも農業で省エネや地球環境問題も取り入れてほしい。草刈機などの省エネ。
私は省エネ努力をしているが、主人の楽しみまで言いにくい。
なるべくエアコン等は使用せず、衣服で調節を行ったりしています。ただ、テレビなどの主電源（コンセント）を切るのを忘れてしまうので、そういったところに気を使うとどのくらいCO2の削減ができるのか知りたいなと思います。
日本政府にGHG排出抑制にもう少し取り組んでいただきたい。それでない日本で製造する気にならない。
便利な生活に慣れてしまっているので、なかなか昔のような生活には戻れないが、節電に努力したい。
自分一人くらい大したことはないという考えが集合すると、とてつもないエネルギーになっていることがわかっていない一般人に、もっと節電の意義を広めていこう！
なるべくエアコン等使うのを控えている。衣服で調節している。
車を持たない。
まずは多くの人に現状を知ってもらわないとこのような大きな問題の解決は難しいと思う。
電気、化石燃料の使用等を控えたい。
ケータイ電話の充電にどれくらい電気を使っているか。
省エネに努めたいです。
自分は努力できるが、家族全員の意識変革は難しいものがある。
今は交通の便利な場所に住んで車を手離し、バス、地下鉄などで生活をしている。地球がこれからも元気であるよう、今できることを努力したい。
冷暖房は全く使用しない。
ゴミが減れば熱放出は減ると思う。
自転車の活用。
努力します。
電気、ガスは周知されていることは多いかと思いますが、私自身もそうですが、水に対しては環境汚染につながる連想がしにくいです。水の出っぱなしなどにつながるのでは。
地産地消という意味では、家で発電でき、それを使うのも良いかも。ただ発電できる時使ってなくて、夜発電できない時必要になる。電気をためるシステムがしっかりできるといい。

センサーライトなど人感センサーで無駄をなくしている。
CO2 を減らす必要がある。
太陽エネルギーの利用で電気（発電）が注目されているが、熱利用の方が手軽に行えて効果も高い。普及を望む。
LED 照明を全室に導入したい。
売電せず、太陽光と風力発電で使用料の 15%程あります。バッテリーへの充電（1kw、200A h）による非常用電源を所有しております。
太陽熱などの取り組みを考えている。
車の使用を控えて歩くようにしたいと思っています。
なるべく厚着をして燃料を使わないようにしている。湯たんぽを残り湯でフトンに入れている。
一生懸命節電したいと思っても、どの商品も値上がりするので、非常に大変です。
一人ひとりが守ると良いと思う。
部屋にエアコンがないので厚着をしたりテントを張ったりして冬を越そうと思います。政府は節電を呼びかける一方で原発を稼働したりとよくわからない。
電球の LED への切り替え。自家用車の小型化（エスティハイブリッド→アクア）。
電気だけでなく、水や資源などもっと考え直すべき問題を子どもたちに伝えていこうと思う。
節電については、家族一人ひとりの意識アップが大事だと思う。車はなくても不自由のない生活が送れるものです。最近は必要時のみ利用のできるカーシェアシステムもあり、必要な時はうまく利用しています。
部屋から出る際には照明を切ることを心掛けています。地球温暖化の原因とも言われる CO2 の量を減らす努力は企業のみでは限りがあるので、各家庭での取り組みが重要だと感じます。
風呂は太陽熱を利用しています。夏は充分すぎるほど熱くなります。もっと多くの家庭が使えば良いと思います。
20W の直管蛍光灯が早くつけないかな。LED の活用をもっと利用したい。
省エネに組み込みたい。
風呂などは続けて入浴するようにしている。
電気をこまめに消す。
私の場合、私は BMW を所有しています。ガソリンをシェルの V パワー、オイルはカストロール、市街地は折り畳み自転車、郊外・遠出では時速 100 キロ@18.3km/L をキープして走り、緑の多いところを使用します。これにより、二酸化炭素排出量は 161g/km から 139 g /km までに省エネしました。ハイブリッド = エコ活動 → ≠ → 運転方法の改善 → エコ。
エネルギー代金について分かってなかったので、興味をもちたい。
企業も努力されていると思いますが、未来の人達のために今一度温暖化に対して見直す姿勢が重要と思います。個人個人も真剣に考える必要性が大切と感じています。
ゴミの分別に心がけ、温暖化に取り組んでいます。
コンセントはこまめに抜いている。テレビは同じ部屋で見るようにしている。電気は消す。
太陽光発電や自然のものを使用して地球温暖化を止めたい。
アンケートに答えながら、省エネに取り組まなくてはいけないと改めて感じました。
家庭ごみの分別。
車 1 台は電気自動車。
なるべく環境に負荷をかけない暮らしをしたいです。
使用する時は有効的に使用し、活性化したい。
もう少し電気が少なくなればいい。
こまめに電気やガスを消して、使用料をできるだけ控えるようにしています。
節電に取り組みたい。

地デジで十年來のテレビを取り替えたら、電気代が大幅に減りました。現在パソコン代が多いかな。企業努力が一番！でもチリも積もれば？チリも頑張ろう！
あんまり車を使わず電車を使用する。
もう少し節電をしたい。
エネルギー使用はほとんどが電力です。電力会社が風力や太陽光、地熱、水力などにもっと積極的に投資すべきだと思います。
容器包装を簡略化。個包装が増え、ゴミも燃えているし、この包装を作るためのエネルギーもバカにならないと思う。
家族の実態に応じて対策をしていただいたいのと、その方法を教えてほしい。
節電・省エネにムリなく取り組みたい。子どもたちにも自然に身につくようにしたい。
誰も居ない部屋や廊下の電気を極力消すようにしている。
色々努力しているが、なかなか減らすことができないので、もっと色々な情報があるとうれしいです。
無駄な電気を消すように心がけているが、なかなか電気代が減らない。
考えた通りの行動が必要。
使用を控えたいとは思っていますが、なかなかできないのが現状です。地球温暖化はほとんど進んでいっているので、今のままで生活を全ての人が自分の問題として考えていかなくてはいけないと感じています。
ゴミが資源に燃料に変われば良いですね。
ソーラーパネルをつけようと考えたことがあるが、費用等を考えるとあまりメリットがあるように思えなかった。
不在の部屋の照明をこまめに消す。家族同室にいる時間を増やす。
少しでも節電すると共に、自家発電の方法を考えたいです。
太陽光発電を使用している。
電気、エアコンをこまめにつけたり消したりの方が本当にいいのかわからない。
ジャーポットと冷蔵庫を省エネのものに変えていきたい。
茶碗を洗うとき、食事を作るとき、水を出来る限り使いまわしています。お風呂のお湯を使っています。
こまめに電気を消すように努力している。
自然のエネルギーを使用できるように。
個々の人々の努力が大きな省エネにつながる。
無駄なテレビなどつけない。無駄な電灯は消す。
一人ひとりが省エネを心がける。
11階で他の家よりは涼しいので自然の風で我慢できるときはそれで涼をとりたい。寒さは着るもので調節したい。
暑い日はシャワー。テレビはだらだら見ない。昼間は電気をつけない。ガスは小さい鍋で湯を沸かしたり煮物をする。
ペレットストーブなど循環型の家電のことももっと知りたい。
自然が豊かな地域なので地球温暖化は感じるが、なかなか取り組みは難しいです。
車はプリウスにしていますが、使用を控えるまでには至りません。24時間の自宅警備のカメラがあり、電気代はかかりますが仕方ありません。
オール電化なので、もっと積極的に節電に取り組まなければいけないと思う。地球温暖化はニュースなどで見ると、そうなのかなーと思う反面、地球の長い歴史（過去に氷河期などがあつた）のひとつの現象という気もする。
主電源をなるべく切るよう努力しています。
緑のカーテンをやってます。
日本は資源がないので、節約が必要である。
LCAを考えて省エネ機器の更新を考えているが、なかなか更新には時間がかかる。17Eのクリプトン球を全部蛍光球に交換した時は、電気代2,000円/月低下しました。
限られたエネルギーを大切にするために、節約生活に取り組みたい。



## 4.2 調査票原票

(※次頁以降に掲載。)



# 平成26年度 愛知県における地球温暖化防止活動基盤形成事業 温室効果ガス排出実態調査にご協力願います

以下の設問にお答えいただき、記入の終わった本紙・調査票は、お近くの愛知県地球温暖化防止活動推進センター・スタッフにお渡しいただくか、環境創造研究センター（愛知県地球温暖化防止活動推進センター）宛の返信用封筒（切手は不要）で12月5日（金）までに郵送してください。

あてはまる番号に○を付けるか（いずれも○は1つつ）、下線部または枠内にあてはまる数字をご記入ください。

## 1. あなたと同じ世帯に住んでいる人の構成について

### 問1. 世帯の構成

1. 単身	2. 夫婦のみ	3. 2世代家族（親・子）
4. 3世代家族（親・子・孫）	5. その他	

### 問2. 同じ世帯に住んでいる人の年齢・性別・人数

あなたご自身を含めて一緒に住んでいる人の年齢（年代）、男性・女性別の人数を下の表に記入してください。（【記入例】を参考に記入ください。）

記入した人数をすべて足すと「あなたご自身を含めた世帯人数」になるよう記入願います。

年齢	男性の人数	女性の人数
70代以上	① 人	② 人
60代	③ 人	④ 人
40代・50代	⑤ 人	⑥ 人
20代・30代	⑦ 人	⑧ 人
13歳～19歳	⑨ 人	⑩ 人
7歳～12歳	⑪ 人	⑫ 人
6歳以下	⑬ 人	⑭ 人

【問2の記入例】 ※夫・45歳、妻・35歳、娘・15歳の三人家族の世帯の場合・・・

年齢	男性の人数	女性の人数
40代・50代	1 人	人
20代・30代	人	1 人
13歳～19歳	人	1 人

## 2. ご家庭での家電の使用状況について

あなたのご家庭における電気製品等の使用状況についておたずねします。

- 問3. 家電それぞれの設定温度や使用時間等について、おおよその数字をご記入ください。複数台を使用されている場合は、最もよく使うものについてお答えください。  
使用していない家電は空欄のままにして、次の問4で「ほとんど使用していない」に○を付けてください。

1) エアコン 【冷房時】	①設定温度 約 度	②使用時間 1日で計・約 時間
2) エアコン 【暖房時】	①設定温度 約 度	②使用時間 1日で計・約 時間
3) その他の 暖房器具 (こたつ、電気 ストーブなど)	最もよく使う暖房器具の使用時間 1日で計・約 時間	
4) 居間・台所 の照明器具	使用時間 1日で計・約 時間	
5) テレビ	①視聴時間 1日で計・約 時間	②主電源が入っている時間 1日で計・約 時間

- 問4. 上の問3で答えたご家庭での電気製品それぞれの使用状況について、ご自身ではどのように感じていらっしゃいますか。一番近いものに○を付けてください。

1) エアコン 【冷房時】	1. もう少し使用を控えたい	2. 使用を控える努力を十分にしている
	3. 使用を控える必要を感じない	4. (ほとんど) 使用していない
2) エアコン 【暖房時】	1. もう少し使用を控えたい	2. 使用を控える努力を十分にしている
	3. 使用を控える必要を感じない	4. (ほとんど) 使用していない
3) その他の 暖房器具 (こたつ、電気ス トーブなど)	1. もう少し使用を控えたい	2. 使用を控える努力を十分にしている
	3. 使用を控える必要を感じない	4. (ほとんど) 使用していない
4) 居間・台所 の照明器具	1. もう少し使用を控えたい	2. 使用を控える努力を十分にしている
	3. 使用を控える必要を感じない	4. (ほとんど) 使用していない
5) テレビ	1. もう少し使用を控えたい	2. 使用を控える努力を十分にしている
	3. 使用を控える必要を感じない	4. (ほとんど) 使用していない
6) 上の1～5の家電以外で、節電・省エネ等のために使用を控えていきたいと感じている家電、実際に使用を控える努力をしている家電などがございましたらご記入ください。		

### 3. ご家庭でのエネルギー使用状況について

問 5. ご家庭の電気・ガス等のエネルギー使用状況について、2月（冬）、5月（春）、8月（夏）、10月（秋）それぞれのおおよその1か月間の使用料金をご記入ください。使用しなかったものには「×」を記入してください。

項 目	① 2月（冬）	② 5月（春）	③ 8月（夏）	④ 10月（秋）
1)電気	円	円	円	円
2)都市ガス	円	円	円	円
3)L P G (プロパンガス)	円	円	円	円
4)灯油	円	円	円	円
5)ソーラー 発電等による 売電量	KWh	KWh	KWh	KWh

#### 【問 5 の記入例】

すべておおよその金額で結構です。

項目	2月（冬）	5月（春）	8月（夏）	10月（秋）
電気	15,000 円	8,000 円	12,000 円	7,000 円
ガス	円	7,000 円	20m <sup>3</sup> <del>円</del>	15m <sup>3</sup> <del>円</del>
灯油	× 円	× 円	× 円	× 円

「わからない」  
場合には空欄に  
してください。

「使用しなかった」場合には「×」か「0（ゼロ）」を記入してください。

料金はわからないが、使用量がわかる場合には、「円」を消して「使用量」と「単位」を記入してください。（※使用量の単位はできるだけ、電気：kwh、都市ガス・LPG：m<sup>3</sup>、灯油：リットル のものをご記入願います。）

問 6. 上の問 5 で答えたご家庭における電気・ガス等の使用状況について、ご自身ではどのように感じていらっしゃいますか。

1. わが家はもっと節電・省エネに取り組むことができると思う
2. もっと節電・省エネに取り組みたいが、何をしたらいいのかわからない
3. 既にわが家なりに十分な節電・省エネに取り組んでいると思う
4. 特に節電・省エネに取り組む必要性はないと考えている

## 4. ご家庭での車の使用状況について

問7. ご家庭で自家用車を所有していますか。

1. 自家用車を所有している

2. 自家用車は持っていない ⇒ 問10へ

※問8・問9は「1. 自家用車を所有している」と答えた人のみお答えください。

問8. ご家庭で所有している車の台数と、1か月のおおよその燃料代（または使用量）をお答えください。

①車の台数	計 _____ 台
②燃料代	家庭全体で1か月間に 約 _____ 円 または 約 _____ リットル (※「金額/円」・「購入量/リットル」のどちらか一方のみの記入で結構です。)

問9. 上の問8で答えた自家用車の燃料代（使用量）について、ご自身ではどのように感じていますか。一番近いものに○を付けてください。

1. もっと車の使用を控えるようにしていきたい
2. 車の使用を控えることはできないが、もっとエコドライブを心がけたい
3. もっと車の燃料代の節約に努めたいが、これ以上は無理だと思う
4. 既に十分に車の使用を控えたり、エコドライブを実践している
5. 特に車の燃料代の節約などに取り組む必要はないと考えている

## 5. 温暖化や節電・省エネに関する意見・疑問など

問10. ご家庭での節電・省エネの取り組み状況、地球温暖化問題に対するご意見や疑問など、自由にご記入ください。


ご協力を誠にありがとうございました

### <本調査に関するお問合せ先>

愛知県地球温暖化防止活動推進センター（一般社団法人環境創造研究センター内） 担当：富田  
〒461-0005 名古屋市東区東桜2-4-1 TEL：052-934-7295